

茨城県障害児・者歯科治療センター記録 (4)

I. 身体障害者小児歯科治療センター (水戸口腔センター)

II. 土浦心身障害者歯科治療センター (土浦歯科治療センター)

平成 26 年度

(平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月)



Ibaraki Dental Association

公益社団法人 茨城県歯科医師会

目 次

1. 在 籍 者 名 簿	2
2. 誌 上 発 表	6
3. 口演・ポスター・講演発表.....	9
4. 口演・ポスター・講演抄録.....	12
5. 講 演 会 ・ 研 修 会	23
6. 講 演 会 ・ 研 修 会 要 旨	27
7. センター案内パンフレット	31
8. セ ン タ ー 紹 介 記 事	32
9. 水戸口腔センター勉強会	37
10. 患 者 統 計	38
11. 写 真 で 綴 る こ の 1 年	42
12. 録 事	49
13. 編 集 後 記	60

1. 在籍者名簿

1. 身体障害者小児歯科治療センター（水戸口腔センター）



関口 浩
歯科医師



大森 勇市郎
歯科医師



三田村 佐智代
歯科医師



森永 桂輔
歯科医師



景山 万貴子
歯科医師



野村 美奈
歯科衛生士



鈴木 哉絵
歯科衛生士



鬼澤 璃沙
歯科衛生士



山下 千春
歯科衛生士



金子 雅子
歯科衛生士



高橋 裕子
歯科衛生士



庄司 紀子
看護師



高橋 千恵子
看護師



磯部 昌己
受付事務

1. 在籍者名簿

I. 身体障害者小児歯科治療センター（水戸口腔センター）

<p>関口 浩（専任歯科医師）センター長、医療管理者 在籍期間：平成 21 年 9 月 1 日～現在 日本障害者歯科学会認定医、日本小児歯科学会専門医指導医、日本外傷歯学会指導医</p>
<p>大森 勇市郎（非常勤歯科医師） 大森矯正歯科クリニック院長 在籍期間：平成 5 年 4 月 12 日～現在 日本障害者歯科学会認定医、日本矯正歯科学会認定医</p>
<p>三田村 佐智代（非常勤歯科医師） 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座講師 在籍期間：平成 18 年 4 月 1 日～現在 日本障害者歯科学会認定医、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士</p>
<p>森永 桂輔（非常勤歯科医師） 森永歯科医院副院長、富士市立中央病院・石岡第一病院非常勤麻酔医 在籍期間：平成 22 年 5 月 1 日～現在 日本歯科麻酔学会認定医、アメリカ心臓協会（AHA）BLS インストラクター 日本救急医学会 ICLS インストラクター</p>
<p>景山 万貴子（非常勤歯科医師） 日本大学松戸歯学部顎顔面矯正学講座助手 在籍期間：平成 25 年 4 月 1 日～現在</p>
<p>野村 美奈（常勤歯科衛生士）主任 在籍期間：平成 19 年 4 月 1 日～現在 日本障害者歯科学会認定歯科衛生士、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（摂食嚥下リハビリテーション）</p>
<p>鈴木 哉絵（常勤歯科衛生士） 在籍期間：平成 21 年 4 月 1 日～現在 日本障害者歯科学会認定歯科衛生士 日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（摂食嚥下リハビリテーション）</p>
<p>鬼澤 璃沙（常勤歯科衛生士） 在籍期間：平成 25 年 4 月 1 日～現在 平成 23 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日茨城歯科専門学校歯科衛生士科</p>
<p>山下 千春（常勤歯科衛生士） 在籍期間：平成 26 年 4 月 1 日～現在</p>
<p>金子 雅子（非常勤歯科衛生士） 在籍期間：平成 13 年 5 月 11 日～現在 日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（在宅療養指導、口腔機能管理）</p>
<p>高橋 裕子（非常勤歯科衛生士） 在籍期間：平成 15 年 2 月 3 日～現在</p>
<p>庄司 紀子（派遣看護師） 茨城県病院局職員（茨城県立中央病院勤務） 派遣期間：平成 26 年 6 月 1 日～現在</p>
<p>高橋 千恵子（派遣看護師） 茨城県病院局職員（茨城県立中央病院勤務） 派遣期間：平成 26 年 6 月 1 日～現在</p>
<p>磯部 昌己（非常勤） 在籍期間：平成 25 年 4 月 22 日～現在</p>

1. 在籍者名簿

II. 土浦心身障害者歯科治療センター（土浦歯科治療センター）



丸山 容子
歯科医師



高木 伸子
歯科医師



梅澤 幸司
歯科医師



伊藤 梓
歯科医師



坂巻 ますみ
歯科医師



竹中 京子
歯科衛生士



木村 貴子
歯科衛生士



石居 由香
歯科衛生士



狩野 晴美
歯科衛生士



手塚 文栄
管理栄養士

1. 在籍者名簿

II. 土浦心身障害者歯科治療センター（土浦歯科治療センター）

<p>丸山 容子（非常勤歯科医師）、医療管理者 在籍期間：平成6年4月1日～現在 日本咀嚼学会健康咀嚼指導士</p>
<p>高木 伸子（非常勤歯科医師） たかぎ歯科医院長 在籍期間：平成4年9月29日～現在 日本小児歯科学会専門医、日本障害者歯科学会認定医、介護支援専門員 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士、日本咀嚼学会健康咀嚼指導士</p>
<p>梅澤 幸司（非常勤歯科医師） 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座講師 在籍期間：平成21年9月1日～現在 日本障害者歯科学会指導医、認定医</p>
<p>伊藤 梓（非常勤歯科医師） 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座助手 在籍期間：平成24年10月5日～平成27年3月31日退職 日本障害者歯科学会認定医</p>
<p>坂巻ますみ（常勤歯科衛生士） 在籍期間：平成25年4月1日～現在 日本咀嚼学会健康咀嚼指導士</p>
<p>竹中 京子（非常勤歯科衛生士） 在籍期間：平成11年5月1日～平成27年3月31日退職 日本歯科衛生士会認定歯科衛生士（摂食嚥下リハビリテーション）（在宅療養指導・口腔機能管理）、介護支援専門員、日本咀嚼学会健康咀嚼指導士</p>
<p>木村 貴子（非常勤歯科衛生士） 在籍期間：平成17年10月25日～現在 日本咀嚼学会健康咀嚼指導士</p>
<p>石居 由香（非常勤歯科衛生士） 在籍期間：平成21年5月11日～現在 日本咀嚼学会健康咀嚼指導士</p>
<p>狩野 晴美（非常勤歯科衛生士） 在籍期間：平成21年6月12日～現在 日本咀嚼学会健康咀嚼指導士</p>
<p>手塚 文栄（非常勤管理栄養士） 在籍期間：平成9年7月7日～現在 管理栄養士、准看護師、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 日本咀嚼学会健康咀嚼指導士、日本栄養士会認定在宅訪問管理栄養士</p>

2. 誌上発表

I. 身体障害者小児歯科治療センター（水戸口腔センター）

No.	題名	著者	掲載誌	年月
1	水戸口腔センターでの1年を振り返って	景山万貴子 村居幸夫 征矢亘 森永和男	茨歯会報No.541 4月号 33頁	平成26年4月
2	日帰り全身麻酔下歯科診療の導入にあたって	鬼澤璃沙 関口浩 村居幸夫 征矢亘 森永和男	茨歯会報No.543 6月号 21-22頁	平成26年6月
3	茨城県身体障害者小児歯科治療センターにおいて日帰り全身麻酔下歯科診療始まる	関口浩 森永桂輔 野村美奈 鈴木哉絵 鬼澤璃沙 山下千春 金子雅子 高橋裕子 村居幸夫 征矢亘 森永和男 庄司紀子 高橋千恵子 角田直枝	茨歯会報No.544 7月号 20-23頁	平成26年7月
4	茨城県身体障害者小児歯科治療センター企画の障害児・者歯科講演会報告	関口浩 鬼澤璃沙 山下千春 村居幸夫 征矢亘 森永和男	茨歯会報No.544 7月号 23-27頁	平成26年7月
5	全身麻酔について	森永桂輔 村居幸夫 征矢亘 森永和男	茨歯会報No.545 8月号 8-10頁	平成26年8月
6	全身麻酔を実施するうえでのリスク評価 第1回 肺（呼吸器）	森永桂輔 村居幸夫 征矢亘 森永和男	茨歯会報No.546 9月号 48-50頁	平成26年9月
7	関東1都4県口腔保健センターにおける障害者歯科医療の取り組みと課題	関口浩 村居幸夫 征矢亘 森永和男	茨歯会報No.547 10月号 46-49頁	平成26年10月

No.	題 名	著 者	掲載誌	年 月
8	全身麻酔を実施するうえでのリスク評価 第2回 腎臓	森永 桂輔 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	茨歯会報No.547 10月号 50-53頁	平成26年10月
9	全身麻酔を実施するうえでのリスク評価 第3回 肝臓（前編）	森永 桂輔 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	茨歯会報No.548 11月号 22-26頁	平成26年11月
10	全身麻酔を実施するうえでのリスク評価 第4回 肝臓（後編）	森永 桂輔 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	茨歯会報No.549 12月号 42-48頁	平成26年12月
11	平成26年度摂食嚥下研修会報告	野村 美奈 三田村佐智代 鈴木 哉絵 鬼澤 璃沙 山下 千春 金子 雅子 高橋 裕子 関口 浩 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	茨歯会報No.549 12月号 49-52頁	平成26年12月
12	外傷による歯列不正発現の防止と処置	関口 浩	一般臨床医が手がける乳歯列期から目指す永久歯列期正常咬合獲得への道（共著） 80-89頁 ヒョーロン	平成27年2月
13	障害者歯科認定歯科衛生士研修会に参加して	鈴木 哉絵 関口 浩 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	茨歯会報No.551 2月号 23-24頁	平成27年2月

2. 誌上発表

II. 土浦心身障害者歯科治療センター（土浦歯科治療センター）

No.	題名	著者	掲載誌	年月
1	最近うれしかったこと	丸山 容子 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	茨歯会報No.542 5月号 25-27頁	平成26年5月
2	特別支援学校における窒息事故予防のためのアンケート調査	高木 伸子 手塚 文栄 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	茨歯会報No.544 7月号 18-19頁	平成26年7月
3	子供の発達と対応	梅澤 幸司 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	茨歯会報No.546 9月号 45-47頁	平成26年9月
4	茨城県土浦心身障害者歯科治療センター企画の障害児・者歯科講習会報告	竹中 京子 丸山 容子 高木 伸子 坂巻 ますみ 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	茨歯会報No.548 11月号 19-21頁	平成26年11月
5	BLSヘルスケアプロバイダーコースを受講して	木村 貴子 丸山 容子 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	茨歯会報No.550 1月号 16頁	平成27年1月
6	第23回茨城県歯科医学会 障害児・者歯科講演会に参加して	石井 由香 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	茨歯会報No.552 3月号 29-30頁	平成27年3月

3. 口演・ポスター・講演発表

I. 身体障害者小児歯科治療センター（水戸口腔センター）

No.	発表形式	題名	発表者	発表学会	年月日	抄録掲載誌
1	ポスター	静脈内鎮静下での障害者 歯科治療に関するアン ケート調査	鬼澤 璃沙 関口 浩 森永 桂輔 大森勇市郎 三田村佐智代 野村 美奈 鈴木 哉絵 山下 千春 金子 雅子 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	第31回 日本障害者歯 科学会総会お よび学術大会 (仙台)	平成26年 11月15日	日本障害者 歯科学会雑誌 35巻3号 318頁
2	ポスター	当センターにおけるホー ムケアに関するアンケー ト調査	鈴木 哉絵 野村 美奈 鬼澤 璃沙 山下 千春 金子 雅子 関口 浩 大森勇市郎 三田村佐智代 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	第31回 日本障害者歯 科学会総会お よび学術大会 (仙台)	平成26年 11月16日	日本障害者 歯科学会雑誌 35巻3号 560頁
3	ポスター	口腔保健センターにおけ る障害者歯科医療の取り 組みと課題	関口 浩 石井 拓男 辻野啓一郎 高野 宏二 山口さやか 小峯 久直 大森勇市郎	第31回 日本障害者歯 科学会総会お よび学術大会 (仙台)	平成26年 11月16日	日本障害者 歯科学会雑誌 35巻3号 574頁
4	ポスター	当センター受診者の満足 度および要望に関するア ンケート調査	金子 雅子 高橋 裕子 山下 千春 関口 浩 野村 美奈 鈴木 哉絵 鬼澤 璃沙 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	第23回 茨城県歯科医 学会 (水戸)	平成27年 2月22日	プログラム ・抄録集 24頁

No.	発表形式	題 名	発表者	発表学会	年月日	抄録掲載誌
5	ポスター	静脈内鎮静下での歯科治療に関するアンケート調査	鬼澤 璃沙 野村 美奈 鈴木 哉絵 山下 千春 金子 雅子 高橋 裕子 関口 浩 森永 桂輔 大森勇市郎 三田村佐智代 景山万貴子 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	第 23 回 茨城県歯科医 学会 (水戸)	平成 27 年 2 月 22 日	プログラム ・抄録集 28 頁
6	口 演	抜管直後に重度な呼吸困難を生じた症例	森永 桂輔 萩原 敏之 鈴木幸一郎 大木 宏介	第 23 回 茨城県歯科医 学会 (水戸)	平成 27 年 2 月 22 日	プログラム ・抄録集 19 頁
7	講 演	障害のある子どもたちへの安全な歯科治療 ～明日から役立つ障害者 歯科：臨床のヒント～	白川 哲夫	第 23 回 茨城県歯科医 学会 (水戸)	平成 27 年 2 月 22 日	プログラム ・抄録集 49 頁

3. 口演・ポスター・講演発表

II. 土浦心身障害者歯科治療センター（土浦歯科治療センター）

No.	発表形式	題 名	発表者	発表学会	年月日	抄録掲載誌
1	ポスター	特別支援学校における窒息事故予防のためのアンケート調査	高木 伸子 手塚 文栄 木村 明美 服部沙穂里	第31回 日本障害者歯 科学会総会お よび学術大会 (仙台)	平成26年 11月15日	日本障害者 歯科学会雑誌 35巻3号 377頁
2	ポスター	当センターにおける最近5年間の初診患者の実態調査	坂巻ますみ 丸山 容子 高木 伸子 竹中 京子 伊藤 梓 梅澤 幸司 野本たかと 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	第31回 日本障害者歯 科学会総会お よび学術大会 (仙台)	平成26年 11月16日	日本障害者 歯科学会雑誌 35巻3号 496頁
3	ポスター	医学生の口腔に対する意識調査～アンケート結果より～	高木 伸子 関口 浩 丸山 容子 竹中 京子 坂巻ますみ 村居 幸夫 征矢 亘 森永 和男	第23回 茨城県歯科医 学会 (水戸)	平成27年 2月22日	プログラム ・抄録集 26頁

4. 口演・ポスター・講演抄録

I. 身体障害者小児歯科治療センター（水戸口腔センター）

発表 No.1

静脈内鎮静下での障害者歯科治療に関するアンケート調査

鬼澤璃沙¹，関口 浩¹，森永桂輔¹，大森勇市郎¹，三田村佐智代^{1,2}，野村美奈¹，鈴木哉絵¹
山下千春¹，金子雅子¹，村居幸夫¹，征矢 亘¹，森永和男¹
茨城県身体障害者小児歯科治療センター¹，日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座²

【諸言】

茨城県身体障害者小児歯科治療センター（略称：水戸口腔センター）に来院する障害児・者の中には、嘔吐反射が強かったり、精神遅滞があり歯科治療に対して拒否行動が激しい患者、脳性麻痺のように緊張や不随運動があり治療が困難な患者がいる。このような患者に歯科治療を行う上でその行動を抑制するために静脈内鎮静法は有用な方法¹⁾であると考え、2010年10月から麻酔医の協力の下に本法の実施を開始した。この静脈内鎮静法が、患者・保護者側にどう理解され、どのような不満や不都合が生じているのかを医療側が理解しておくことは、より良いインフォームドコンセントの確立のためにも必要であると思われる。そこで今回、水戸口腔センターにおける静脈内鎮静下での障害者歯科治療に関するアンケート調査を行ったので報告する。

【対象および方法】

対象は2010年10月から2014年3月に当センターにて静脈内鎮静法下で歯科治療を受けた障害患者あるいはその保護者49名である。アンケートは郵送による返信方法で、記名式で行った。回答が得られたのは49名中38名であり、有効回収率は77.6%であった。アンケートの質問内容は、静脈内鎮静に際しての術前の説明のあり方、心情、帰宅後の様子などであり、選択式で回答を得た。なお、本調査は日本障害者歯科学会倫理委員会の承認を得て実施した（承認日：2013年1月1日，臨床研究番号120004）。

【結果】

- ①歯科医師が静脈内鎮静法を行うことを知っていたのは約1/3の34%であった。
- ②術前の説明が十分であったと回答したのは95%で、不十分と回答したのは5%、2名であった。
その2名がもっと説明して欲しかったとした内容は「安全性」であった。
- ③術前に何らかの不安があったと回答したのは55%、21名であった。不安の内容は「何となく」が最も多く、次いで「事故の発生」、「後遺症」、「歯科医師の技術・経験」の順であった。
- ④帰宅後に心配があったのは13%、5名であった。心配の内容は「嘔吐」、「元気がない」、「発熱」、「食欲不振」などであった。
- ⑤周囲からの反対があったのは3%、1名であった。反対であったのは施設の職員であった。
- ⑥静脈内鎮静法を受けるに当たって負担と感じたことが特になかったのは66%、23名で、残り34%、12名の人は何らかの負担を感じていた。負担の内容は、術前の絶飲食が最も多く12名のうち半数の6名が挙げていた。
- ⑦静脈内鎮静法下での歯科治療が有意義であったかという質問に対して、大変有意義であった81%、少し有意義であった16%をあわせて97%の人が有意義であったと回答した。

【考察および結論】

歯科治療に対して拒否行動が激しい障害児・者に対しては、その行動を調整するための一法として、静脈

内鎮静法の導入は患者および保護者の精神的、肉体的苦痛を回避でき、また術者にとっては安全かつ効率的に歯科治療が行えることから、これまで治療が困難であった患者に応用できる有用な方法であると考えられる。本調査では97%の人が本法の利用に肯定的な意見であったが、本法に対する不安や説明、対応に関する不満を挙げる保護者もいた。インフォームドコンセントの概念において、患者および保護者が十分に知らされる内容には、適応理由や具体的方法の他、利益と不利益・危険性・合併症なども含まれる。インフォームドコンセントは患者・保護者と医療双方のためのものであり、今回のアンケート結果をふまえて、患者・保護者が十分に知らされ納得した歯科医療の流れを確立していきたいと考える。

発表 No.2

当センターにおけるホームケアに関するアンケート調査

鈴木哉絵¹、野村美奈¹、鬼澤璃沙¹、山下千春¹、金子雅子¹、関口 浩¹

大森勇市郎¹、三田村佐智代^{1,2}、村居幸夫¹、征矢 亘¹、森永和男¹

茨城県身体障害者小児歯科治療センター¹、日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座²

【緒言】

障害児・者において、口腔衛生指導を行う場合には、生活場面を十分に考慮した指導が必要である。また、本人のみでは歯ブラシの操作が困難な場合もあり、口腔内の環境を維持・管理するには本人のみならず、保護者や介助者の協力のもと、日常生活でのホームケアが確立できるように口腔衛生指導を行うことが重要となる。そこで今回、ホームケアの実態を把握し効果的な口腔衛生指導のあり方を模索することを目的に、当センターに来院した患者の保護者・介助者へアンケート調査を行ったので報告する。

【対象および方法】

平成26年4月9日から平成26年5月9日の1ヵ月間に、当センターに来院し口腔衛生指導をうけた患者168名を対象に保護者および介助者へアンケートを行った。アンケートは無記名とし、回答は選択肢方式と一部自由方式とした。本調査は、日本障害者歯科学会倫理委員会の承認を得て実施した（承認番号140011）。

【結果】

①受診患者について

患者の主な障害は、精神遅滞53名(31.5%)、自閉症51名(30.4%)、ダウン症候群32名(19.1%)、脳性麻痺18名(10.7%)、その他14名(8.3%)の順であった。年齢は、最低年齢が3歳で最高年齢が50歳であり、平均年齢が20.5歳であった。性別は、男性115名(68.5%)女性53名(31.5%)であった。

②ホームケアについて

「1日何回歯磨きをしますか」では、3回が最も多く88名(52.4%)で、2回が49名(29.1%)であった。本人の歯磨き状況については、「自分で歯磨きをしますか」では、「する」が103名(61.3%)、「しない」が62名(36.9%)であった。「する」と答えた者で、「歯磨きの習慣性はありますか」については、「ある」が95名(92.2%)「ない」が3名(2.9%)「どちらともいえない」が3名(2.9%)であった。

1回の歯磨きの時間については、1分が18名(10.7%)で最も多く、2分が9名(5.3%)、30秒が8名(4.8%)の順であった。

「歯ブラシ以外に何か使用していますか」では、使用していると答えた者は8名(4.8%)でいずれも、デンタルフロスであった。

仕上げ磨きの状況については、「仕上げ磨きをする」が90名(53.6%)であり、回数は1日に1回が

39名(43.3%)で最も多かった。

「いつしますか」の問いでは、就寝前にするが最も多かった。「仕上げ磨きをしない」の答えが63名(37.5%)であり、しない理由としては、「本人が嫌がる」、「本人に任せている」がそれぞれ15名(23.8%)、「時間がない」が8名(12.7%)であった。

「家での歯磨きで困っていることはありますか」では、「奥歯を磨くのが難しい」が15名(8.9%)、「歯ブラシを嚙んでしまう」が10名(6.0%)、「舌や頬の力が強い」が9名(5.4%)であった。

「当センターで今後歯磨きについて行ってほしいことはありますか」については、「もう少し自分で磨けるように歯磨き指導をして欲しい」が19名(11.3%)と最も多く、次いで、「口腔衛生指導の間隔をもう少し短くして欲しい」が7名(4.2%)、「ぶくぶくうがいの仕方を教えて欲しい」が5名(2.8%)であった。

【考察および結論】

今回の調査において、8割以上の者が1日に歯磨きを2回以上行っていた。また、6割の者が自分で歯磨きを行っており、その9割に習慣性を認めた。すなわち、口腔衛生指導を受診している者の多くはホームケアへの意識が得られていると考える。しかしながら、保護者による仕上げ磨きは約半数であったが、仕上げ磨きの方法がわからず、困難さを感じている者も認められた。また、口腔衛生指導に対する要望として、本人の自立や短期間での指導を望んでいることがわかった。今後は、より良いホームケア行えるように、保護者や介助者も含め、口腔衛生に関するより詳細な知識や技術を伝えていく必要があると考える。

発表 No.3

口腔保健センターにおける障害者歯科医療の取り組みと課題

関口 浩¹、石井拓男²、辻野啓一郎^{3,4}、高野宏二⁵、山口さやか⁶、小峯久直⁷、大森勇市郎¹
茨城県身体障害者小児歯科治療センター¹、東京歯科大学社会歯科学研究室²
東京歯科大学小児歯科学講座³、群馬県歯科総合衛生センター⁴
埼玉県歯科医師会口腔保健センター⁵、東京都立心身障害者口腔保健センター⁶
千葉市総合保健医療センター⁷

【緒言】

平成25年度口腔(歯科)保健センター等業務内容調査報告書によれば、障害者歯科診療実施施設数は全国365カ所中140カ所(38.4%)ある。障害者を受け入れる歯科診療施設の数が増えることは地域の障害者、保護者にとって喜ばしいことであるが、その反面、診療の現場では様々な課題が発生し、それを解決するために歯科医師会および診療スタッフはその対策に試行錯誤しているのではないであろうか。今回、歯科医師会が管理・運営する関東1都4県の口腔保健センターにおける障害者歯科診療の取り組みと課題を調査したので報告する。

【対象および方法】

1都4県(東京、群馬、埼玉、千葉、茨城)の各口腔保健センターに以下の項目について調査を依頼した。

1. 運営体制(歯科医師と歯科衛生士数、診療日数/週、年間延べ患者数、歯科用診療台数)、2. 患者対応法・指導状況(日帰り全身麻酔法、静脈内鎮静法、摂食機能療法、言語聴覚療法実施の有無と年間延べ患者数)、3. 障害者歯科診療協力医数、4. 歯科医療体制の課題、5. 研修の課題。

【結果】

①歯科医師と歯科衛生士数、診療日数/週、年間延べ患者数、歯科用診療台は東京(16名、25名、週6日、15,309名、15台)、群馬(4名、7名、週5日、4,851名、3台)、埼玉(6名、8名、週5日、7,635名、

7台), 千葉(8~9名, 13名, 週2日, 465名, 3台), 茨城(5名, 5名, 週4日, 6,375名, 5台)であった。

- ②日帰り全身麻酔法, 静脈内鎮静法, 摂食機能療法, 言語聴覚療法実施の有無と年間延べ患者数は東京(全麻150名, 静鎮26名, 摂食784名, 言語789名), 群馬(全麻無, 静鎮35名, 摂食無, 言語無), 埼玉(全麻175名, 静鎮186名, 摂食91名, 言語無), 千葉(全麻4名, 静鎮69名, 摂食無, 言語無), 茨城(全麻無, 静鎮67名, 摂食404名, 言語無)であった。
- ③障害者歯科診療協力医数は東京89名, 群馬71名, 埼玉366名, 千葉53名, 茨城124名であった。
- ④歯科医療体制の課題は東京は長期通院し地域にもどる時期を逃さないように患者の固定化の改善と来院中断患者の受診行動の喚起と定期的な歯科予防管理の必要性への理解および歯科医療連携システムの構築を挙げている。群馬は三次医療機関の不足と一次医療機関との連携不足を挙げている。埼玉は治療終了後の定期通院患者の増加に伴い, 予防処置, 定期検診が増加して診療に支障を来しかねない状況であり, これを改善するためには, 一次医療機関との連携を深めて相互に患者を診療するシステムの見直しを挙げている。千葉はリコール患者の増加, リコール患者の高齢化, リコールシステムの確立, 歯科医師間における治療の質の標準化, リコール協力医の拡充などを挙げている。茨城は患者数が増加傾向にあるため患者を受け入れる歯科診療所, 病院歯科, 近隣の歯科大学病院との連携を深め, 患者を相互に受け入れる体制作りの推進を挙げている。5.研修については千葉と茨城を除く東京, 群馬, 埼玉では障害者歯科診療協力医の養成を目的に研修を行っている。

【考察および結論】

各口腔保健センターの共通課題として, 患者数の増加が挙げられる。茨城, 群馬は歯科大学がなく患者の受入先としてセンターが選択される傾向にある。今後この状態が継続した場合, 診療に支障を来す恐れがあるため, 各センターでは一次医療機関との間に患者を相互に受け入れる連携システムの構築が推進されている。また障害者歯科診療協力医の養成を目的に研修が行われているが, センターによっては十分に機能していない面もある。今後, 障害者が最小の負担で安全・安心かつ質の高い歯科治療を受けることができる歯科医療体制の仕組みを口腔保健センターと歯科医師会が中心に整備していくことが要望される。

発表 No.4

当センター受診者の満足度および要望に関するアンケート調査

金子雅子, 高橋裕子, 山下千春, 関口 浩, 野村美奈, 鈴木哉絵, 鬼澤璃沙
村居幸夫, 征矢 亘, 森永和男
茨城県身体障害者小児歯科治療センター

【緒言】

本調査は, 茨城県身体障害者小児歯科治療センターに通院する患児・者あるいは家族, 施設職員を対象に対応・診療・施設などについての満足度および要望に関してアンケート調査を行い, その結果をセンター運営の改善資料として活用し, さらなる質的向上に役立てることを目的に実施した。

【対象および方法】

調査対象は平成26年10月15日から11月17日までの約1か月間に当センターに来院した障害児・者および健常児の家族, 本人あるいは施設職員400名である。これら対象者に対して調査の目的を説明し同意が得られた方にアンケート用紙を手渡し, 即日回答したものを回収または後日郵送にて回収を行った。回答が得られたのは400名中376名であり, 回収率は94.0%であった。調査項目は17項目である。回答方法は「非

常に満足」,「満足」,「普通」,「やや不満足」,「不満足」の五肢択一形式とした。また「やや不満足」,「不満足」を選択した場合はその選択理由を記述してもらった。

【結果および考察】

- ①記入者については、8割以上が家族である事から、患者対応というのは患者単体だけではなく、その家族・保護者との関わりが重要となってくる事が分かった。
- ②当センターの初来院から現在までの通院期間について、半数以上が6年以上通院しており新患も増加している。
- ③対応の満足度は、スタッフの対応について8割以上が非常に満足・満足という意見だがやや不満・不満も若干ある事から、今後更に歯科医師・歯科衛生士・受付職員がそれぞれの立場で誠意ある態度で望むことが求められる。
- ④診療の満足度は、診療に対しての安心感や満足度、説明に対して8割以上が満足を感じているが、診療間隔や診療費では不満の意見もあった。
- ⑤設備・環境の満足度は、8割以上が診療室・待合室の環境は満足しているが、駐車場の環境では不満を感じている意見があり、その理由は車椅子の駐車スペースが狭いため早急に対応する必要がある。
- ⑥近隣歯科医院への転院希望については、9割以上が引き続き当センターへの通院を希望しているが、1割弱は近くの歯科医院を希望している。今後、地域医療機関と協力体制の構築を推進し、連携を深めていく必要がある。
- ⑦総合的な満足度は、9割以上が満足の意見があり、不満の回答はなかった。

【結論】

不満を感じている来院者、意見や要望のある来院者がいる限りより良い医療サービスを提供できるよう向上していかなければならない。その為には常に来院者の意見を真摯に受け止めるように心掛け、そして不満・意見・要望に対して私たちが何を出来るのかスタッフ間で検討し、早期改善に努めていきたい。

発表 No.5

静脈内鎮静下での障害者歯科治療に関するアンケート調査

鬼澤璃沙¹, 野村美奈¹, 鈴木哉絵¹, 山下千春¹, 金子雅子¹, 高橋裕子¹, 関口 浩¹, 森永桂輔¹
大森勇市郎¹, 三田村佐智代^{1,2}, 景山万貴子^{1,3}, 村居幸夫¹, 征矢 亘¹, 森永和男¹
茨城県身体障害者小児歯科治療センター¹, 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座²
日本大学松戸歯学部歯科学講座³

【緒言】

当センターでは、平成22年10月より歯科診療への恐怖心が強く、拒否行動が著しい患者や嘔吐反射を認める患者などを対象に、担当医、麻酔医の協力の下、患者、保護者への説明・同意を得て、静脈内鎮静下での歯科治療を行っている。医療者は患者、保護者が静脈内鎮静の実施についてどのような不安・心配が生じたかを理解することが必要であり、今後の改善すべき点などを明確にしていくことが大切である。そこで、静脈内鎮静下での歯科治療を行った患者・保護者を対象に、術前・術後の心境や帰宅後の様子など、選択式のアンケートを実施し、結果をまとめたので報告する。

【対象および方法】

平成22年10月から平成26年11月に当センターにて静脈内鎮静下で歯科治療を受けた患者または保護者77名である。アンケートは郵送で行い、回答が得られたのは77名中62名であり、回収率は80.5%であった。

【結果】

静脈内鎮静下で歯科治療を行って、大変有意義だったと答えた方が体の約9割を占めた。しかし、術前・術後に不安を感じた方も多く、術前では事故の発生や後遺症、その他に本人が不安や恐怖で騒ぐのが心配だった持病に影響しないかなどがあげられた。術後では元気がない、嘔吐、唇に傷がつき腫れてしまったこと、痛み、食事の摂取などがあげられた。また、静脈内鎮静で負担となったことは術前の絶飲食、精神的負担が多く、精神的負担では点滴確保時や待ち時間がきつかったなどの意見があった。

【考察および結論】

静脈内鎮静下で歯科治療を行うことによって、全体の95%の患者、保護者は本法に対し肯定的な意見がみられ、治療が困難だった患者へも応用できる有用な方法だと考えられる。しかし、術前や術後の不安・負担を感じた方もおり、本法に対する安全性や術前の絶飲食、点滴確保時の精神的負担が多くみられた。医療者は患者、保護者の不安・負担を取り除くため、術前に安全性のことも含め丁寧に説明し、負担を軽減できるように術前・術後も患者、保護者を気遣い配慮することが大切であると考えられる。今回の結果をふまえ、患者、保護者が十分に納得し、安心して本法を利用できるよう、改善に努めていきたいと考える。

発表 No.6

抜管直後に重度な呼吸困難を生じた症例

森永桂輔^{1, 2, 3}, 萩原敏之², 鈴木幸一郎², 大木宏介²

森永歯科医院（水戸市歯科医師会）¹

（公社）地域医療振興協会 石岡第一病院（土浦石岡歯科医師会）²

茨城県身体障害者小児歯科治療センター³

患者は66歳女性。身長156cm、体重76kg。BRONJによる上顎骨髄炎に対して全身麻酔下に腐骨除去手術を予定した。術前検査では、血液検査・心電図・呼吸機能検査・胸部X線写真ともに異常所見は認められなかったが、手術2日前に38度の熱発を呈しており、前日に内科受診し、36.8度まで下がっていた。導入・維持・覚醒まで問題なく経過したが、抜管して約1分後に突然の呼吸困難を呈し始め、患者の意識レベルは急激に低下（JCS II -30）し、BP210/120、HR110、SpO₂ 68%とバイタルも急変した。全身麻酔後の呼吸器合併症の主な原因として、①薬剤（吸入麻酔薬・鎮静剤・鎮痛剤）の残存、②喘息発作、③喉頭痙攣、④乱暴な挿管操作による声門周囲の損傷や浮腫、⑤気胸（ブラ存在下での笑気使用・鎖骨下静脈からの中心静脈カテーテル挿入など）、⑥術中の片肺挿管による無気肺などが挙げられるが、今回最も原因として疑われるのが喉頭痙攣である。喉頭痙攣は、気道への何らかの刺激をきっかけとして、声門周囲の筋肉が攣縮し、急に呼吸困難、特に吸気困難を呈する状態（呼気障害の喘息発作との鑑別が必要）で、非常に苦しい状態であるが、数分のうちに回復するのが特徴である。しかし補助換気が困難な状態が続くようであれば、筋弛緩剤を投与し再挿管も考慮しなければならない。喉頭痙攣の発症要因として、以下の4つが挙げられる。

- ①年齢：若年齢であるほど発症リスクが高く、就学前では2%前後に達し、発症の50～68%は5歳以下との報告がある。1歳年齢が上がる毎に、リスクは8～11%減少する。
 - ②上気道感染症：上気道感染症があると発症リスクは2～5倍に上昇する。治癒後6～8週間は気道過敏性が亢進しており、特に喉頭痙攣の発症には2週間以内が要注意である。
 - ③受動喫煙：家族内に喫煙者がいると、発症率は10倍程度上昇する。
 - ④麻酔による刺激：浅麻酔・上喉頭神経領域の刺激（分泌物、血液、カテーテル・喉頭鏡の接触など）。
- このうち今回のケースの要因として最も可能性が高いのは上気道感染症である。2日前の熱発のエピソード

ドから、気道の過敏性が亢進していたことが予想される。それにしても、抜管前に純酸素で換気していたことを考慮すると今回の SpO₂ の低下は早かった。この急激な低酸素血症の原因として以下の機序が考えられる。仰臥位での全身麻酔（換気血流不均衡）・肥満（BMI：31.2）⇒機能的残気量：FRC（特に予備呼気量：ERV）の低下⇒クロージングキャパシティ（C.C：末梢気道が閉塞し始める分画）内での換気様式。そもそも仰臥位の全身麻酔は重力の関係で、肺胞が圧迫されている背面に血流が多く分配されるという換気血流の不均衡が生じている上に、非生理的な陽圧換気が影響し FRC は 40% 近く減少しているといわれている。その上肥満が重なると腹部の臓器が横隔膜を圧迫し特に ERV の減少をきたし FRC はさらに低下している。このため通常の呼吸においても C.C に入ってしまう、一部肺胞が閉塞した状況で呼吸していたことが想像できる。

気道トラブルは、対応が遅れば死にもつながる危険な合併症である。今回、肥満患者に喉頭痙攣が併発したことにより重度の呼吸不全を呈した症例を経験した。目の前の換気不全がどのような原因で起こっているのか、そしてその対処法は何か、素早く判断し、実行に移さなければならない。それと同時に、そのようなトラブルを未然に防ぐためのリスク評価が重要となる。

発表 No.7

障害のある子どもたちへの安全な歯科治療 ～明日から役立つ障害者歯科：臨床のヒント～

白川哲夫

日本大学歯学部小児歯科学講座

医療の提供に際して、安全を確保し事故を未然に防止することは医療に従事するものとして当然の責務であり、患者が小児であれ成人であれ、また健常者であれ障害者であれ、その重要性に変わりはない。一般に小児や知的障害者は歯科治療への協力が得にくいいため、治療への導入にさまざまな工夫が必要である。なかでも知的障害のある小児では時間をかけてもなかなか理解が得られにくく、治療を強行したような場合には治療用器具による組織損傷などの事故が起こり易い。そのような事故を回避するためには、歯科医師や歯科衛生士が、行動調整法などによる、状況に応じた対応法を身につけておく必要がある。また、先天異常や遺伝性疾患等によって全身的にさまざまな問題を有している小児については、それぞれの疾患について知識を深め、病態をよく理解しておくことが必要である。

障害児・者における医療事故リスクとしては、

- 1) 抜去歯や器具・装置類の誤飲・誤嚥
- 2) 嘔吐物による気道閉塞・窒息
- 3) アナフィラキシーショック
- 4) 治療器具・機器による組織損傷

などがある。

これらのうち誤嚥等による窒息とアナフィラキシーショックは、発生から 10 分ほどの間に呼吸停止、心停止に移行する可能性があるという点において最も回避したい事故といえる。めったに起きないことではあるが、アナフィラキシーショックが疑われた場合、また実際に発生した際の対処の手順を確認しておく必要がある。

薬物などによるアナフィラキシーショックとは異なり、誤飲・誤嚥についてはいくつかの対策を講じることで発生を予防することが可能である。逆に誤飲・誤嚥のリスクを意識せずに障害児・者や低年齢児に対し

て歯科治療を行った場合には、その時点ですでに事故のリスクが高まっていると言える。歯科治療に先だつて患児の協力度を評価したのち、恐怖や不安を減弱させるためのトレーニング、ラバーダム法、除痛法を的確に行うことで、治療時における口腔への異物の落下をかなり防ぐことができる（表参照）。加えてバイタルサインに注意を払いながら無理のない治療を心がけることで、不幸な医療事故に遭遇することなく医療者の務めを全うできるのではないかと考える。

4. 口演・ポスター・講演抄録

II. 土浦心身障害者歯科治療センター（土浦歯科治療センター）

発表 No.1

特別支援学校における窒息事故予防のためのアンケート調査

高木伸子^{1,2}, 手塚文栄^{1,2}, 木村明美¹, 服部沙穂里¹

医療法人たかぎ歯科¹, 茨城県土浦心身障害者歯科治療センター²

【緒言】

茨城県下の特別支援学校で、給食中に窒息事故が起きた。そのため平成 25 年度には再発防止のため、県教育委員会が県立特別支援校 16 校全校で個別指導と研修会を複数回行い、教員と保護者を対象に摂食機能の発達理解を促した。しかし、知的障害児の摂食機能の現状について今まで調査は行われていなかった。そこで、我々は学校と協力して、1. どんな生徒が窒息事故を起こしかかったのか、2. リスクを軽減するためにどんなところに着目して給食指導や個別指導を行うとよいのかを知る目的で調査をおこなった。なお、本アンケートは本人または家族、学校に文書により説明し承諾を得た。

【対象および方法】

平成 25 年 6 月に茨城県内の特殊支援学校 2 校で、知的障害児の担任教師に生徒についてのアンケート記入を依頼した。質問項目は、年齢、性別、体格、障害名、言葉の有無、全般的な理解力、口腔内状況、窒息の経験、給食のようす、口腔の運動などで該当項目を○で囲む形式を基本とし、A4 版 1 枚にまとめた。

【結果】

小学部から高等部合計 501 名の回答があり、そのうち 499 名を有効回答とし、検討を行なった。

①学校の給食時に窒息事故を起こしかかった生徒は 10 名いた（以下このグループを「ニアミス群」、そうでないグループを「一般群」とする）。内訳は、小学部 4 名（3%）、中学部 4 名（3%）、高等部 2 名（1%）であった。

②ニアミス群と一般群では、嚥下機能、咀嚼機能不全と関係の深い項目に差が見られた。特に、「口の周りを舌でうまくなめませるか」の項目で、「きれいになめられる」がニアミス群で 10%、一般群では 70%であった。その他、「よだれがある」、「時々オエッとする」、「食べこぼしがある」、「いつも口をあけている」、「上を向いて飲み込む」、「かきこんで食べる」、「詰め込んで食べる」、「顎を左右に動かせない」などに差がみられた。

③言葉のない生徒は、ニアミス群で 40%、一般群で 14%だった。

④ニアミス群の 10 人のうち 6 人がダウン症児であった。また、ニアミス群のダウン症児のうち 2 人に言語表出がない。一般群のダウン症児では言葉の出ていない生徒は 10%で、それに比べ割合が多かった。

⑤体格は、BMI（体重÷身長²）で比べると、ニアミス群は全員 20 前後で普通からややせ気味体格で肥満児はみられなかった。

【考察および結論】

給食で窒息事故を起こしかかった生徒（ニアミス群）は 10 名で小中学部の 3%、高等部の 1%であった。ニアミス群で目立つ項目は「ダウン症」、「口の周りを舌でなめませない」、「時々オエッとする」であった。共通するのは舌や口輪筋や頬筋などの動きの悪さで、これらの動きをよくすることは、窒息事故予防に繋がると思われる。また、調査によって教員が摂食行動をよく観察するようになり、個別教育目標に摂食項目が入るなど、教員の関心を高めることにも寄与した。生徒の QOL 向上に資する研究を今後も続けたい。

当センターにおける最近5年間の初診患者の実態調査

坂巻ますみ¹, 丸山容子¹, 高木伸子¹, 竹中京子¹, 伊藤 梓^{1,2}, 梅澤幸司^{1,2}, 野本たかと²
村居幸夫¹, 征矢 亘¹, 森永和男¹
茨城県土浦心身障害者歯科治療センター¹, 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座²

【緒言】

茨城県土浦心身障害者歯科治療センター（以下、当センター）は障害児・者と一般歯科診療所では受診困難な者に対し歯科医療を提供する為、平成3年に公益社団法人茨城県歯科医師会によって開設された。近年、当センターでは年間約90名の初診患者が来院しており、開設から22年間に診療体制の変更や障害の多様化を認めた。そこで、現在の状況を把握するため、近年5年間の初診患者の実態調査を行った。

【対象および方法】

対象は平成21年4月から平成26年3月までの5年間に当センターに来院した456名の初診患者で、初診時間診票ならびに診療録を用いて調査した。調査項目は患者の初診時年齢、性別、障害、主訴、居住地、来院手段とした。本調査は日本障害者歯科学会倫理委員会の承認を得て実施した（承認番号140012）。

【結果】

- ①初診時の平均年齢は22.8歳で0～9歳が181名(39.6%)で最も多く、次いで10～19歳が86名(18.8%)、20～29歳が46名(10.1%)、30～39歳が49名(10.8%)、40～49歳が33名(7.2%)、50～59歳は21名(4.6%)、60歳以上は40名(8.8%)であった。
- ②性別は男性295名(64.6%)、女性161名(35.4%)であり年度別でも男性が多かった。
- ③障害は自閉スペクトラム症が148名で最も多く、次いで精神発達遅滞が112名、ダウン症が27名、脳性麻痺が24名、精神疾患が23名、脳卒中後遺症が17名、染色体異常が15名、注意欠如多動性障害が8名、認知症が8名であった。
- ④初診時の主訴はカリエス処置が301名で最も多く、次いで検診が43名、歯周病処置が41名、義歯の処置が24名、予防が6名であった。
- ⑤居住地はつくば市が87名(19.0%)で最も多く、次いで土浦市が85名(18.6%)、石岡市が26名(5.7%)、かすみがうら市が17名(3.7%)であった。
- ⑥来院手段は電車とバスを利用した患者が1名でその他455名は自家用車での来院であった。

【考察および結論】

患者の初診時年齢は0～19歳の患者が58.4%で、全体の半分以上を占め、自閉スペクトラム症や精神発達遅滞が多い反面、脳卒中後遺症などの中途障害は少なかった。これは当センターでは学校の親同士による紹介が多いことが理由と思われる。また、発達障害の総数に対する男女の割合は平成23年生活のしづらさなどに関する調査によると男性69.7%、女性30.2%と報告されており¹⁾同様の結果を得た。初診時主訴はカリエス処置を希望した患者が多かった。歯科疾患実態調査²⁾によると5歳以上15歳未満の各年齢で4～7割の者が乳歯または永久歯にう蝕を有していた。当センターでも全主訴の7割がう蝕処置を希望しており、実態調査と同様であった。居住地は茨城県の定めた二次医療圏外から71.1%の患者が来院しており、茨城県内の障害者歯科治療機関の少なさが影響したと思われる。

今回の調査により当センターは自閉スペクトラム症や精神発達遅滞が多く、県内の広域から来院を認めた。そのため患者の特性を把握し、患者が必要とする治療環境をさらに整備する必要があると考えられた。また、地域医療を担う二次医療機関として一般歯科診療所、医科の病院や行政とも連携し、地域の障害者・児の歯科受診機関の整備にも努めていきたい。

【文献】

- 1) 厚生労働省：平成 23 年生活のしづらさなどに関する調査. 3 - 6, 厚生労働省, 東京, 2013.
- 2) 厚生労働省：歯科疾患実態調査. う蝕とその処置状況. 厚生労働省, 東京, 2011.

発表 No.3

医学生の口腔に対する意識調査 ～アンケート結果より～

高木伸子¹, 関口 浩², 丸山容子¹, 竹中京子¹, 坂巻ますみ¹

村居幸夫^{1,2}, 征矢 亘^{1,2}, 森永和男^{1,2}

茨城県土浦心身障害者歯科治療センター¹, 茨城県身体障害者小児歯科治療センター²

【緒言】

65 歳以上が総人口の 25% を越え, 日本は平均寿命, 高齢者数, 高齢化のスピードとともに, 世界一の超高齢社会となった。従来の疾病を治す医療から, 健康や暮らしを支える医療へと変化が求められている。このような流れの中, 質の高い医科歯科連携が必須であるが, 臨床では円滑に連携がなされているとは言い難い。そこで将来, 医師となる医学生が口腔に対してどのような意識を持っているのか調査したのでまとめて発表する。

【対象および方法】

平成 26 年 9 ~ 10 月に保健所の依頼で土浦, 水戸の障害者歯科センターに見学に来た 5 年生の医学生 (2 校) 9 人に口腔に対するアンケート調査をおこなったので発表する。

【結果】

- ①大学で口腔あるいは歯科についての講義を受けたことがあるのは 8 人だった。
- ②乳歯の数は, 9 人全員が 20 本, 永久歯の数は, 36 本と答えた人が 4 人だった。
- ③あなたは, なぜ歯を磨きますか (○複数可) の問いに, ほとんどの学生が「虫歯や歯周病の予防のため」, 「口腔内の清潔を保つため」, 「口臭を防ぐため」, 「清涼感を得るため」と答えた。
- ④要介護高齢者には, 口腔ケアがなぜ重要だと思いますか (○複数可) の問いに, 「虫歯や歯周病の予防のため」6 人, 「口腔内の清潔を保つため」6 人, 「口臭を防ぐため」3 人, 「清涼感を得るため」3 人, 「誤嚥性肺炎を防ぐため」9 人, 「低栄養の予防のため」2 人, 「口腔の機能を維持・回復するため」6 人, 「全身状態の維持・回復のため」3 人, 「全身感染症の (感染性心内膜炎など) の予防のため」6 人, 「コミュニケーション機能の維持・回復のため」4 人, 「在院日数短縮のため」4 人, 「医療費の削減のため」3 人, 「QOL 向上のため」6 人だった。
- ⑤1 歳 6 か月検診で, 母親から子どもが上の前歯が虫歯になったことについて相談を受けたという想定で, どんな生活をしている子どもか, 虫歯の原因は何か考察するという課題では, 食生活や生活リズム, 歯みがき習慣の不良と答えた。

【考察および結論】

医学生は自分自身の歯みがきは, 虫歯や歯周病の予防のため, 口腔内の清潔を保つため, 口臭を防ぐため, 清涼感を得るために行っていることがわかった。一方, 要介護高齢者においては, 誤嚥性肺炎を防ぐために口腔ケアが重要であることは全員が理解していたが, 口腔ケアが全身状態の維持・回復や低栄養の予防, 引いては在院日数短縮や医療費の削減に関係していると認識している学生は少なかった。また, 口腔ケアを感染予防のものとしてとらえ, 口臭予防, 清涼感を得るなど, 生活の質や尊厳を守る行為としてとらえていないように伺えた。子どものむし歯については, 甘いもの, 食べ方等の食生活や生活リズム, 歯みがき習慣を上げており, 虫歯予防についておおむね理解されていると思われた。感想文から, 医学生にとって障害者歯科センターの見学は口腔を理解する上で大変有意義であり, 医科歯科連携の第一歩であると考えられる。

5. 講演会・研修会

I. 身体障害者小児歯科治療センター（水戸口腔センター）

1) 講演会

No.	題名	演者	講演会名	年月日
1	発達障害の理解と言語治療	棟方 直子	心身障害者（児）の歯科予防講習会（水戸）	平成 26 年 6 月 8 日
2	障害のある子どもたちへの安全な歯科治療 ～明日から役立つ障害者歯科：臨床のヒント～	白川 哲夫	第 23 回茨城県歯科医学会（水戸）	平成 27 年 2 月 22 日

2) その他の講演会・研修会

(1) 摂食嚥下研修会

No.	題名	演者	主催	年月日
1	講義 食べるための構造とメカニズム	三田村佐智代 センター 歯科衛生士	茨城県歯科医師会	平成 26 年 6 月 24 日
2	講義 哺乳・離乳期の発達とその障害			7 月 22 日
3	講義 自食機能の発達とその障害			8 月 26 日
4	実習 摂食嚥下機能訓練の実際① 間接訓練			9 月 30 日
5	実習 摂食嚥下機能訓練の実際② 直接訓練			10 月 28 日
6	講義・ディスカッション 摂食嚥下機能障害への対応 ～各障害における摂食指導の実際～ 摂食嚥下機能評価の方法、事例検討（参加型）			12 月 7 日

(2) 茨城県特別支援学校強化事業

No.	題名	演者	主催	年月日
1	〈茨城県立境特別支援学校〉 実践研究 2～5 回 内容：児童生徒の食べる機能の実態把握と支援方法 ・給食指導及びケースカンファレンス ・地域在住の幼児児童生徒及び保護者からの食べる機能に対する相談対応	野村 美奈 鈴木 哉絵	教育庁 特別支援教育課	平成 26 年 9 月 24 日
4				11 月 19 日
				12 月 10 日
				平成 27 年 1 月 21 日

(3) 地域での取り組み

No.	題 名	演 者	主 催	年月日
1	安全に楽しく食事をするために ～食事（摂食・嚥下）に関する研修会と実習～ ・保護者及び関係者向けの講義・実技 ・学校職員向けの講義・実技	実習補助として 野村 美奈 鈴木 哉絵	県立水戸特別支援 学校	平成 26 年 6 月 4 日
2	摂食・嚥下機能のメカニズムとリハビリテー ションの実際	野村 美奈	リリー保育福祉専 門学校 介護福祉科 2 年	平成 27 年 1 月 7 日
3	保護者勉強会 お口の健康と食べる機能の大切さ ・保護者への講義とブラッシング指導	野村 美奈 鈴木 哉絵	ひたちなか市心身 障害児療育訓練セ ンター 野蒜・かなりや教 室	平成 27 年 2 月 18 日
4	食べる機能の実態把握と支援方法 ・施設職員向けの講義 ・食事指導及びケースカンファレンス	野村 美奈	涸沼学園	平成 27 年 3 月 18 日

5. 講演会・研修会

II. 土浦心身障害者歯科治療センター（土浦歯科治療センター）

1) センター主催の講演会

No.	題名	演者	講演会名	年月日
1	発達を促す食事支援 ～食べたように子は育つ～	中島知夏子	障害児・者歯科予防講習会	平成 26 年 9 月 21 日

2) その他の講演会・研修会

(1) 茨城県特別支援学校強化事業

No.	題名	演者	主催	年月日
1	〈美浦特別支援学校〉 個別指導	手塚 文栄	教育庁 特別支援教育課	平成 26 年 6 月 30 日
2	〈美浦特別支援学校〉 個別指導	手塚 文栄		平成 27 年 1 月 29 日
3	〈下妻特別支援学校〉 個別指導	手塚 文栄		平成 26 年 7 月 24 日
4	〈下妻特別支援学校〉 職員研修	手塚 文栄		平成 26 年 8 月 20 日
5	〈下妻特別支援学校〉 個別指導, 保護者対象講習会	手塚 文栄		平成 26 年 9 月 25 日
6	〈下妻特別支援学校〉 保護者対象講習会	手塚 文栄		平成 26 年 11 月 27 日

(2) 地域多職種連携で摂食嚥下障害支援を行っていくための勉強会

No.	題名	演者	主催	年月日
1	嚥下造影の基礎と臨床	安岡 利一 (株)日立製作所多賀総合病院副院長)	土浦摂食カン ファレンス	平成 26 年 4 月 11 日
2	こどもに使う神経系薬剤の使用状況と その特徴	渡辺 章充 (土浦協同病院小児科医師)		5 月 9 日
3	摂食嚥下障害児・者の口腔の様子あれ これ	高木 伸子 (たかぎ歯科院長・歯科医 師)		6 月 13 日

No.	題名	演者	主催	年月日
4	摂食嚥下障害とその対策	市村 和大 (市村歯科医院・歯科医師)		9月12日
5	糖尿病の基礎	安岡 利一 (株)日立製作所多賀総合病院副院長)		10月10日
6	当院の嚥下キッチン	梶山 楊平 (志村大宮病院・ST)		12月12日
7	当院の嚥下食と地域連携	後藤 恵理子 (志村病院・管理栄養士)		12月12日
8	県南の地域連携の紹介	鈴木 薫子 (株)日立製作所日立総合病院・管理栄養士)		12月12日
9	食べる楽しみを再び ～牛久コスモス園（小規模多機能型施設）職員と共に～	古田 良恵 (牛久セントラル病院・摂食嚥下障害看護認定看護師)		平成27年 1月10日
10	小児症例検討会	菅谷 陽子 (県立医療大 摂食嚥下障害看護認定看護師)		平成27年 3月13日

(3) 専門職への啓発活動

No.	題名	演者	主催	年月日
1	在宅におけるこどもの口腔ケアと摂食 ～こどもとかぞくの生活をささえる技Part6～	高木 伸子	筑波大学附属病院 けやきプラザ	平成26年 9月26日
2	摂食嚥下訓練技術論	高木 伸子	茨城県立医療大学	12月8日
3	障害児を中心にした食形態の工夫とリスクマネジメント	手塚 文栄	茨城県立医療大学	12月12日
4	栄養と食形態を考慮した在宅療養者の元気のメニュー	手塚 文栄	褥瘡研究会	12月18日

6. 講演会・研修会要旨



茨城県歯科医師会主催 障害児・者講演会のお知らせ

発達障害の理解と言語治療

日 時：平成26年6月8日(日) PM1:30～3:30

会 場：茨城県歯科医師会館 3F講堂 (水戸市見和292-1)

入 場：無料



講師からのメッセージ

言語聴覚士(以下ST)は、医療、福祉、学校、老健・特養、研究・教育機関などで言葉や聴こえ、食物を口からたべることに障害を持つ方々の機能回復や発達促進の援助を行っています。2013年度までに約2万2千人のSTが養成されています。就業してから一貫して発達障害児の療育と言語治療に携わってきました。子供の発達障害の理解およびSTとして特に自閉症の言語治療について臨床事例をご紹介しますと思います。

講師 棟方直子 先生プロフィール

昭和55年 東北女子大学卒業
 昭和55年 弘前大清水学園勤務
 昭和62年 日本聴能言語学院卒業(IB)
 昭和62年 宮本病院リハビリテーション科勤務
 昭和62年 千葉県立リハビリテーション研修(平成2年まで)
 平成 2年 東京歯科大学千葉病院口腔外科非常勤
 現在に至る

受講申込方法：参加申込書により、下記宛にお申込ください。

茨城県身体障害者小児歯科治療センター（水戸口腔センター）

FAX：029-215-2573 または TEL：029-254-4177 担当：関口 浩

※切り取らずにそのまま送ってください

参加申込書

※6月4日までにお申込ください

氏 名	所 属	職 種	電話・Fax番号
			Tel Fax
			Tel Fax
			Tel Fax

茨城県歯科医師会主催 研修会のご案内

～障害児・者の食べる機能を育てるために～ 摂食嚥下研修会

☆ 開催日時：平成 26 年 6 月～12 月までの 全 6 回 ※下記プログラムのとおり

☆ 開催場所：茨城県歯科医師会館 3F 講堂（水戸市見和 2-292-1）

【講師】 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座 講師 三田村 佐智代 先生
茨城県身体障害者小児歯科治療センター 非常勤医

講師プロフィール

日本障害者歯科学会認定医

日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士(歯科医師)

千葉県歯科医師会 摂食指導医

八千代・野田特別支援学校 非常勤講師(摂食)

松戸こども発達センター 摂食指導医

***スタッフ** 茨城県身体障害者小児歯科治療センター所属歯科衛生士

【平成 26 年度プログラム】

月 日	時 間	内 容	
6月24日(火)	午後 6:20～7:50	第1回 講義	・食べるための構造とメカニズム
7月22日(火)	午後 6:20～7:50	第2回 講義	・哺乳・離乳期の発達とその障害
8月26日(火)	午後 6:20～7:50	第3回 講義	・自食機能の発達とその障害
9月30日(火)	午後 6:20～7:50	第4回 実習	・摂食嚥下機能訓練の実際 ①
10月28日(火)	午後 6:20～7:50	第5回 実習	・摂食嚥下機能訓練の実際 ②
12月7日(日)	10:30～ 15:30	第6回 講義 ディスカッション	・摂食嚥下機能障害への対応 —各障害における摂食指導の実際— ・摂食嚥下機能評価の方法 ・事例検討(参加型)

☆ 対 象：茨城県内の障害のある者に関わる職種の方

☆ 受講申し込み方法：裏面の申込書にて、一人一枚ずつお申し込みください

* 問い合わせ先 * 茨城県歯科医師会館内
茨城県身体障害者小児歯科治療センター(水戸口腔センター)
◎FAX:029-215-2573 または TEL:029-254-4177

「発達を促す食事支援」

～食べたように子は育つ～

- 日 時：平成26年 9 月 21 日（日） 13時～15時（12時30分より受付開始）
- 会 場：霞ヶ浦医療センター 講堂 土浦市下高津 2-7-14 電話 029-822-5050
- 講 師：NPO 法人摂食コミュニケーション・ネットワーク理事長
摂食カウンセラー

中島 知夏子 先生



*略歴

- 1972年 淑徳大学社会福祉学部社会福祉学科卒業
千葉県内養護学校教諭。昭和大学金子芳洋教授に師事し、養護学校内で摂食指導開始
- 1989年 別府整肢園等で摂食指導の傍ら、職業訓練校や高校福祉コースで教鞭をとる
- 2001年 NPO 法人摂食コミュニケーションネットワーク設立。別府満部学園短大助教授
- 2005年 NPO 活動専念のため別府満部学園短大を退職。現在は福祉人材育成に向けて、各地で講演活動を行うとともに障害のある子どもや高齢者を中心に摂食・生活指導を行っている

*講師からのメッセージ

食べることは本来楽しいものです。うれしいことや良いことがあると、つい心が解放され同時に食欲も増し、食事での会話が自然と弾むものです。ところが、身も心も満足する「食べる」という行動がうまくいかない障害のある人たちの食事風景をみると、必ずしも私たちが期待している楽しいものではないことがあります。

口から食べるという基本的な機能の発達は、「食べる」ことを通して障害のある人たちの心理、情緒面を著く成長させ、それによってコミュニケーションの基礎も培われていくものと考えています。食事指導の技術の習得はもちろんですが、指導者（介助する人）と障害のある人たちとの心のふれあいを重視して、一人ひとりの全身の発達を促す食事指導であって欲しいと願っています。

食べる力の発達を把握し、どこでつまづいているのか、どんな原因が考えられるのか、改善のためにどんな働きかけをすれば良いのかを共に考えたいと思います。

- 対 象：養護教諭、幼稚園・保育園職員、施設職員、保健師、看護師、歯科医師、歯科衛生士 他
- 受講料：無 料
- 申込み方法：下記申込書により 9月18日までに下記あてに、お申し込み下さい
*茨城県身体障害者小児歯科治療センター（水戸口腔センター）
◎FAX：029-215-2573 または TEL：029-254-4177

※切り取らずに、そのまま FAX 送信して下さい

研修会参加申込書

診療所名		住 所	
氏 名		職 種	
電話番号		FAX 番号	

第23回茨城県歯科医学会 障害児者歯科講演会

 公益社団法人 茨城県歯科医師会主催

『障害のある子どもたちへの安全な歯科治療』

～ 明日から役立つ障害者歯科：臨床のヒント ～

- 日 時：平成27年2月22日（日） 午後1時～3時
- 会 場：水戸プラザホテル（水戸市千波町2078-1）
- 講 師：白川 哲夫 先生（日本大学歯学部小児歯科学講座教授）
- 入 場：無料



(略歴)

昭和57年 3月 北海道大学歯学部卒業
昭和61年 3月 北海道大学大学院歯学研究科博士課程修了
昭和61年 4月 北海道大学歯学部附属病院医員
昭和61年 6月 北海道大学歯学部附属病院助手
平成元 年10月 北海道大学歯学部附属病院講師
平成14年 6月 北海道大学歯学部附属病院助教授
平成18年 9月 日本大学教授（小児歯科学）
現在に至る

(講師からのメッセージ)

本講演では、歯科医療の現場で比較的遭遇する機会が多いと思われる小児期の障害について概説するとともに、障害児の歯科治療で医療安全のレベルをより高めるための工夫や留意点についてお話ししたいと思います。

- 申込み方法：下記申込書により、2月18日 までに下記あてにお申し込みください



茨城県身体障害者小児歯科治療センター（水戸口腔センター）

FAX：029-215-2573 または TEL：029-254-4177

参加申込書

※切り取らずにそのままFAX送信してください

診療所名		住 所	
氏 名		職 種	
電話番号		FAX番号	

7. センター案内パンフレット

茨城県土浦心身障害者歯科治療センターのご案内

診療対象者

地域の歯科医療機関では対応が困難な障害のある方を対象としています。

診療内容

- 1 一般歯科
歯科診療に対する不安・恐怖を乗り越えられるような対応を心がけて診療を行います。
- 2 笑気吸入鎮静法
恐怖心を和らげ、精神的にリラックスした状態で治療が受けられます。
- 3 口腔健康管理・指導
歯科衛生士による歯面清掃、歯石除去、フッ化物塗布などの専門的な口腔健康管理、また発達や機能に応じた歯みがき指導などの支援を行います。
- 4 摂食嚥下リハビリテーション
食べることが上手にできない方を対象に専門スタッフが指導を行います。



診療日と診療・予約時間・休診日

診療日	月曜～金曜
診療時間	午前9:00～12:00/午後1:00～5:00
予約時間	
休診日	土曜・日曜・祝日、夏季、年末年始

診療日程

診療内容	月	火	水	木	金
歯科診療	●	●	●	●	●
摂食嚥下リハビリ指導				●	

バリアフリー

- ・診療室は土浦市保健センターの1階です。
- ・障害者用駐車場があります。
- ・駐車場から車椅子のまま診療室への入室が可能です。
- ・診療室はバリアフリー仕様です。
- ・車椅子用トイレを完備しています。



お問合せ・交通のご案内

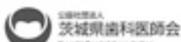
茨城県身体障害者小児歯科治療センター

水戸市見和2-292-1 茨城県歯科医師会館内
TEL.029(254)4177 FAX.029(215)2573
E-mail center-mito@baskai.or.jp



茨城県土浦心身障害者歯科治療センター

土浦市下高津2-7-27 土浦市保健センター内
TEL.029(822)3835 FAX.029(826)4832
E-mail t-sikacenter@song.ocn.ne.jp



水戸市見和2-292-1 TEL.029(252)2561
ホームページ <http://www.baskai.or.jp/>

障害者歯科治療センターの

ご案内

Information Guide



茨城県歯科医師会

茨城県身体障害者小児歯科治療センター
(略称 水戸口腔センター)

茨城県土浦心身障害者歯科治療センター
(略称 土浦歯科治療センター)

障害者歯科治療センターの紹介

茨城県歯科医師会は、昭和47年から水戸市の茨城県歯科医師会館1階に茨城県身体障害者小児歯科治療センター(水戸口腔センター)を開設し、障害児・者の歯科診療と小児の予防歯科診療を行ってきました。平成3年には土浦市保健センター1階にも茨城県土浦心身障害者歯科治療センター(土浦歯科治療センター)を開設しました。診療終了後も、リコール制(定期健診)を探り入れ長期にわたる口腔衛生の向上に努めています。なお、一般社団法人日本障害者歯科学会より障害者歯科臨床実践施設の指定を受けています。

初めて受診する方のご利用の流れ

- 必要で十分な診療時間を確保するために予約制をとっています。まず、受診希望先にお電話もしくは直接センター受付で予約をお取り下さい。
予約受付時間:月曜～金曜/午前 9時～12時
午後 1時～ 5時
水戸口腔センター 予約電話番号:029(254)4177
土浦歯科治療センター予約電話番号:029(822)3835
- 予約の際に、名前、年齢、住所、電話番号、付き添いの有無、障害の程度などをお伺いします。
- 急患の場合も、あらかじめ連絡を入れてからお越しください。
- 受診の日には、予約時間の15分前までに、次のものを持参してセンター受付にお越しください。
健康保険被保険者証、福祉医療受給資格者証、療育手帳、障害者手帳、現在服用中の薬品名が判るお薬手帳、薬剤情報提供書、歯ブラシ、タオル
- 初めての方はできるだけ紹介状(診療情報提供書)をお持ちください。
- 受付で問診票に、必要事項を記入し、提出してお持ちください。
- 診療の継続が必要な場合、予約窓口で再診の予約をお取りします。お名前をお呼びするまで待合室でお待ちください。
- 会計窓口で会計を済ませてください。診療費、保険証、公費負担医療証をお返します。お薬の処方がある場合は、窓口でお渡しします。

茨城県身体障害者小児歯科治療センターのご案内

診療対象者

地域の歯科医療機関では対応が困難な障害のある方および健常小児を対象としています。



診療内容

- 1 一般歯科・小児歯科・歯科口腔外科などの歯科診療
歯科診療に対する不安・恐怖を乗り越えられるような対応を心がけて診療を行います。
- 2 日帰り全身麻酔・静脈内鎮静法・笑気吸入鎮静法
処置回数が多く、集中治療の必要がある場合や恐怖心や不安感が強く、歯科治療が安全に入れない場合などに行います。
- 3 口腔健康管理・指導
歯科衛生士による歯面清掃、歯石除去、フッ化物塗布などの専門的な口腔健康管理、また摂食指導、発達や機能に応じた歯みがき指導などの支援を行います。
- 4 摂食嚥下リハビリテーション
食べることが上手にできない方を対象に専門スタッフが指導を行います。

診療日と診療・予約時間・休診日

診療日	月曜～金曜
診療時間	午前9:00～12:00/午後1:00～5:00
予約時間	
休診日	土曜・日曜・祝日、夏季、年末年始

診療日程

診療内容	月	火	水	木	金
歯科診療	●	●	●	●	●
摂食嚥下リハビリテーション			●		
日帰り全身麻酔	●	●	●		
静脈内鎮静	●	●	●	●	
小児予防歯科診療				●	

- 日帰り全身麻酔 : 午前 9時～12時
- 静脈内鎮静法 : 午後 1時～ 3時
- 小児予防歯科診療: 午後 1時～ 5時

日帰り全身麻酔下歯科診療の流れ

- 1 問診・検査データの依頼
担当歯科医が問診、口腔内診査を行い、歯科麻酔医に全身麻酔を依頼します。
全身麻酔施術には施術前1か月以内の血液検査・心電図・胸部エックス線写真の検査データが必要となります。検査データをお持ちでない方でご希望の方には検査医療機関をご紹介します。
- 2 歯科麻酔医による問診
検査結果に基づき、歯科麻酔医が全身麻酔適用の可否について判断致します。
- 3 保護者と患者さんに全身麻酔についての説明を行い、同意が得られた後、施術日を決めます。
- 4 施術当日
・午前中に処置を行います。
・処置終了後は覚醒の状態をみて、午後以降帰宅できます。

バリアフリー

- ・診療室は歯科医師会館の1階です。
- ・障害者用駐車場があります(一部、屋根付き)。
- ・駐車場から車椅子のまま診療室への入室が可能です。
- ・診療室はバリアフリー仕様です。
- ・車椅子用トイレを完備しています。



8. センター紹介記事

1. ライオン歯科医療・介護情報ライブラリ「DENT.File」vol.30（平成26年10月24日発行）

Dental Hygienist Life 17

茨城県身体障害者小児歯科治療センター
歯科衛生士 鈴木 哉絵さん

患者さんとの信頼関係を なによりも大切に



茨城県歯科専門学校歯科衛生士科を卒業後、茨城県身体障害者小児歯科治療センターに勤務して今年で6年目の鈴木哉絵さん。「ずっと障害者歯科に携わっていきたい」と話す鈴木さんに、日々のやりがいや、大切にしていることを伺いました。

実習がきっかけで障害者歯科の道へ

当センターは茨城県歯科医師会が開設している、主に障害児・者の歯科診療を行う診療所です。常勤の歯科医師が1名、曜日ごとに違う非常勤の歯科医師が1名という2人体制で診療を行っており、月曜日は日帰り全身麻酔や静脈内鎮静、火曜日は摂食嚥下リハビリテーションというように、曜日によって異なる診療科目を扱っています。

私は学生時代、当センターでの実習がきっかけで「障害者歯科に携わりたい」と思うようになり、卒業時に運良く声をかけていただき、現在に至ります。今は診療アシスタントや定期健診といった基本的な歯科衛生士業務のほか、摂食嚥下リハビリテーションにも携わっています。

摂食嚥下リハビリテーションには障害を持つ低年齢児の患者さんが多く、発達段階に応じた食具や姿勢などの食環境・食形態の指導、食べる時に使う筋肉の機能訓練などを行っています。リハビリテーション外来を続けることで、成長とともに上手に食べられるようになる子どもたちを見ることに、とてもやりがいを感じています。私の現在の目標は、摂食嚥下リハビリテーション認定士の資格を取ることです。

患者さんとの信頼関係を築く

障害のある患者さんと接する時に大切なのは、信頼関係を築くことです。そのためには、声掛けや対応法などの工夫が必要になります。上手に接す

鈴木さんの出身校

茨城県歯科専門学校

1979年4月に茨城県歯科衛生士学院と茨城県理工専門学校が統合し、歯科衛生士科と歯科技工士科にそれぞれ分かれて、現在の茨城県歯科専門学校として新生。歯科医師と共に歯科医療を担うパートナーの育成を目指し、最先端の設備・機器を取り揃え、充実した教育環境にある。また、介護を必要とする高齢者・障害者に対応できる知識と技術を有する歯科衛生士を養成するために、介護職員初任者研修を開講している。

ればきちんと話を聞いてもらえるので、ゆっくりと一緒に治療を進めていくことを心掛けています。

学生の時に障害者歯科について教えていただいた中で、今でも実践していることの一つに「絶対に嘘をつかない」ということがあります。これは、例えば歯を削る治療に気乗りしない患者さんに「今日は削らないよ」と嘘をついて治療を受けさせてしまうと、その一度の嘘が記憶に残り、信頼関係を築けなくなるからです。また、不思議なことに、失敗などで私が落ち込んでいると、患者さんに気付かれて「頑張って」と励まされてしまうことがあります。そのため、落ち込んだ気分を引きずらないことも大切だと思いますが、これはまだ修行中です。



学生時代の教科書は手放せないテキスト

私は対応に迷うことやわからないことがあった時、先生や他の衛生士さんにアドバイスを貰うとともに、家に帰って教科書を見直しています。そうすると、自分の対応が正しかったかどうかを再確認でき、基本に立ち返って考えられます。基本がしっかり

していないと応用はできませんから、教科書はいつになっても手放せません。

これから、もっと勉強と経験を重ねて、患者さんに「鈴木さんに担当してほしい」と言ってもらえるような歯科衛生士を目指したいです。

8. センター紹介記事

2. オサダ歯科情報誌「Zoom Up」No.140 (平成 27 年 2 月 1 日発行)

02 | Watch 診療室

公益社団法人茨城県歯科医師会 茨城県身体障害者小児歯科治療センター

茨城県水戸市見和 2-292-1

小児の予防から全身麻酔下治療、摂食嚥下リハビリまで一般歯科で治療困難な患者を一手に担う

1972年から障がい者・児の歯科医療に取り組む

茨城県身体障害者小児歯科治療センター（略称：水戸口腔センター）は、茨城県歯科医師会が運営する障がい者・児の歯科診療と小児の予防歯科を担う施設で、1972年に水戸市の茨城県歯科医師会館内に開設され



「全身麻酔の導入で一定の設備は整いました。今後は障がい者医療に取り組む仲間を増やすことに一層力を入れていきたいと考えています」
茨城県歯科医師会 会長 森永 和男先生



「診療体制の整備、地域連携ネットワークの構築、人材育成などやるべきことはまだまだたくさんあります」
茨城県身体障害者小児歯科治療センター センター長 関口 浩先生

た。診療とその後の定期検診で、障がいのある人たちの口腔の健康増進に努めている。脳性麻痺や自閉症、精神発達遅滞などの患者が多く、高齢者は患者全体の約4割だ。

「私たちが障がいのある方々の歯科診療に取り組み始めて40年あまりになりますが、実は茨城県では、障がい者歯科の専門施設として活動しているところは今でも身体障害者小児歯科治療センターと土浦心身障害者歯科治療センターの2つしかありません。65歳以上の高齢者が約75万人、障がい者が9万人弱という状況を考えるとあまりにも少なく、早急に対策を考えねばならないと思っています」と同センターが現在抱える大きな課題を語るのは、2011年に就任し

た茨城県歯科医師会の森永和男会長だ。

「会長に就任する以前は、私自身も障がい者の口腔の状態や歯科受診の状況を正確には把握していませんでした」と率直に語りつつ、歯科医師会の代表として各地で講演活動を行ったり、障がい者・児の家族や関係者と交流したりするなかで、現実を知ったと振り返る。

「口腔の健康維持が大事だとはわかっていても、実際には、重度の障がいがあると治療を断られてしまう、相談先すらないといった大きな問題を突きつけられました。そこで、まずは大学病院など高機能病院との連携強化を図ろうとしたのですが、なかなか思うようにいかない。結果的



水戸口腔センターが入っている茨城県歯科医師会館

茨城県身体障害者小児歯科治療センター

に、当センターで受け入れるのが一番だと考えるようになりました」と森永会長。そのための環境整備を、いま着々と進めているという。

■ 静脈内鎮静法、全身麻酔下 歯科診療を順次導入

当センターでは、2010年より静脈内鎮静法(セデーション)が導入されたことにより、治療を受けられる方がかなり増えたが、さらに重い障がいをもつ人、長い間放置してしまったために歯や歯周病が口腔全体に広がってしまっているが遠方に住んでいるため頻回の通院は困難、といった人々への対応は難しかった。

そこで14年6月、森永会長のもと新たに導入されたのが「日帰り全身

麻酔下歯科診療」だ。担当医による口腔内診査と歯科麻酔医による術前検査、全身麻酔の説明を経たのち、一日で主要な治療の完了を目指す。日帰りのため、基本的に全身麻酔下の治療は午前中とし、オペルーム専任看護師の観察の下、術後合併症がないことを確認し、夕方帰宅となる。

麻酔医は全国的に不足が指摘されているが、森永会長の息子の森永桂輔先生が麻酔医で、会長が市内で開いている森永歯科医院の副院長でもあることから、同センターの非常勤麻酔医として麻酔一般を担っている。

関口浩センター長によれば、6月以降、日帰り全身麻酔下歯科診療の対象患者は月に1~2人ペースで推移している。「潜在ニーズは相当あると思

います。今後はこうした治療が可能であることを関係者に伝え、多くの患者さんに利用していただきたいと思っています」と話す。

関口センター長は14年3月まで36年間にわたり母校の東京歯科大学に勤務した小児歯科のベテランだ。09年から水戸口腔センターに出向し、常勤医として障がい者・児の治療に力を注いできた。そのようななか「この仕事はほかの仕事とかけもちでできるものではない」と考えるようになり、大学を退任したのを機に、14年4月から同センター専任となり、センター長に就任したという経緯がある。

同センターは、森永会長、関口センター長という障害者歯科に理解の深い歯科医師を中心に、大学病院な



待合室は広くゆったりしたソファが並ぶ



開放的な受付カウンター。口腔ケア用品の購入もできる



STSシステムが2台並ぶ診療室



摂食嚥下リハビリテーションを行う個室

02 Watch 診療室

どから派遣される非常勤歯科医師、日本障害者歯科学会認定歯科衛生士2名を含む専門知識と技術に長けた歯科衛生士などを擁しており、ますます充実してきている。非常勤歯科医師の専門分野は各曜日担当医によってさまざまで、それぞれが専門性を発揮している。

リニューアルを機に ST5システムを配備

水戸口腔センターでは、全身麻酔をはじめ機能を充実させながら、老朽化したユニットの入れ替えなども進めている。このほど新しく導入したのは、口腔外科手術、障害者歯科、小児歯科など幅広い診療を想定したシステムユニット、「ST5」である。

この機種について関口センター長からは、「障がいのある方の診療の状況をよく考えて設計されていると思います。特にチェアが低い位置で安定する(最低位400mm)機能は、車いすからの移乗にとっても便利。完全な水平位にできることで、抑制帯を使用したり、ご家族に小さなお子さんの腰のあたりに座って一緒に体を支えていただいたり、といったことも安全に行えます。安定感があるので、全麻の治療にも適しています」と具体的な評価をいただいた。

森永会長はオサダについて、「派手さはないが堅実。私たちが使いやすい良い機械を作る会社と認識しています。今後も入れ替えの際にはオサダを採用していきたい」と話してくだ

さった。

摂食嚥下リハビリテーション、言語聴覚療法など患者ニーズに積極的に対応

常に障がい者本人や家族の声に耳を傾けている森永会長は、新しい取り組みとして摂食嚥下リハビリテーションを挙げる。「これまでは口腔の状態が悪くて、食事はただ何か食べるだけになっていたものが、いろいろなものをおいしく食べたいというニーズが出てきたのです。バランス良く、おいしく食べることは生きることの基本ですから、私たちが歯科医師としておおいに協力したい分野です」とうれしそうに話す。

非常勤医の1人が摂食嚥下の専門



患者さんに水平に寝てもらって診療を行う関口センター長と、それをアシストする歯科衛生士



関口センター長を囲むスタッフの皆さん。前列向かって左はこの日の非常勤歯科医師で口腔外科医の景山 万貴子先生



自閉症の人など言葉でのコミュニケーションが難しい患者さんには楽しいイラストで説明を行う

- 開業年月 1972年7月11日
- 面積 294.8平方メートル(約89.3坪)
- 主な機器や設備 オサダST5システム2台、オサダブチクレーブ
- スタッフ構成(非常勤含む) 歯科医師4名、麻酔医1名、歯科衛生士6名、受付1名

家であることから、摂食嚥下リハビリテーション外来は、この歯科医師が勤務する火曜に予約制で実施。日頃の食事や使用している食器のチェック、機能評価、指導などを行っている。

森永会長は、「食べられるようになった次の課題はコミュニケーションです。障がいのある方のご家族は、患者さんが上手に話すことを心から望んでおられます。その気持ちに応えようと、現在は関口センター長ともども茨城県言語聴覚士会に働きかけて言語聴覚療法を行う準備を進めています」と、意欲的に取り組みの幅を広げる様子を紹介する。

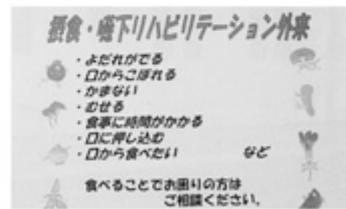
さらに同センターは日本障害者歯科学会より障害者歯科臨床経験施設の認定を受けており、人材育成も大

きな使命と位置づけている。「当センターの認知度が高まってきた今、マンパワー不足は否めず、障がい者歯科の知識、技術を持つ人材の育成は急務です」と森永会長。関口センター長も、人材育成の必要性を強く認識しており、「地域の歯科医師、歯科衛生士を対象とした勉強会を2015年度から始めます」と具体的な計画を明かす。

今後は、現在150名が登録している協力医とのネットワークづくりも強化していく。「連携強化のためには私たちの活動を知ってもらうことが先決」と、関口センター長が編集し、毎年発行している50ページ以上からなる冊子「茨城県身体障害者小児歯科治療センター記録」も3冊を数え、

関係者に広く配付されている。

茨城県歯科医師会では91年、土浦市保健センター内に茨城県土浦心身障害者歯科治療センター（略称：土浦歯科治療センター）も開設している。現在は水戸、土浦と同様のセンターを県西地域に開設することを計画し、すでに古河市に狙いを定めている。茨城県の障がい者歯科医療の拠点として、同センターのさらなる発展が期待される。



診療室に掲示されていた摂食嚥下リハビリ外来の案内

茨城県土浦心身障害者歯科治療センター

茨城県土浦市下高津 2-7-27 土浦市保健センター内



土浦歯科センターは丘の上に建つ土浦市保健センターの1階



保健センターには休日緊急診療所などが入っている



土浦歯科治療センターでもSTSシステムをご愛用いただいている



窓に囲まれ自然光がたっぷり入るため院内はとて明るい



毎週月曜日を担当している日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座講師で日本障害者歯科学会指導医の梅澤 幸司先生（前列中央）と先生を囲むスタッフの皆さん。5名全員が歯科衛生士だ

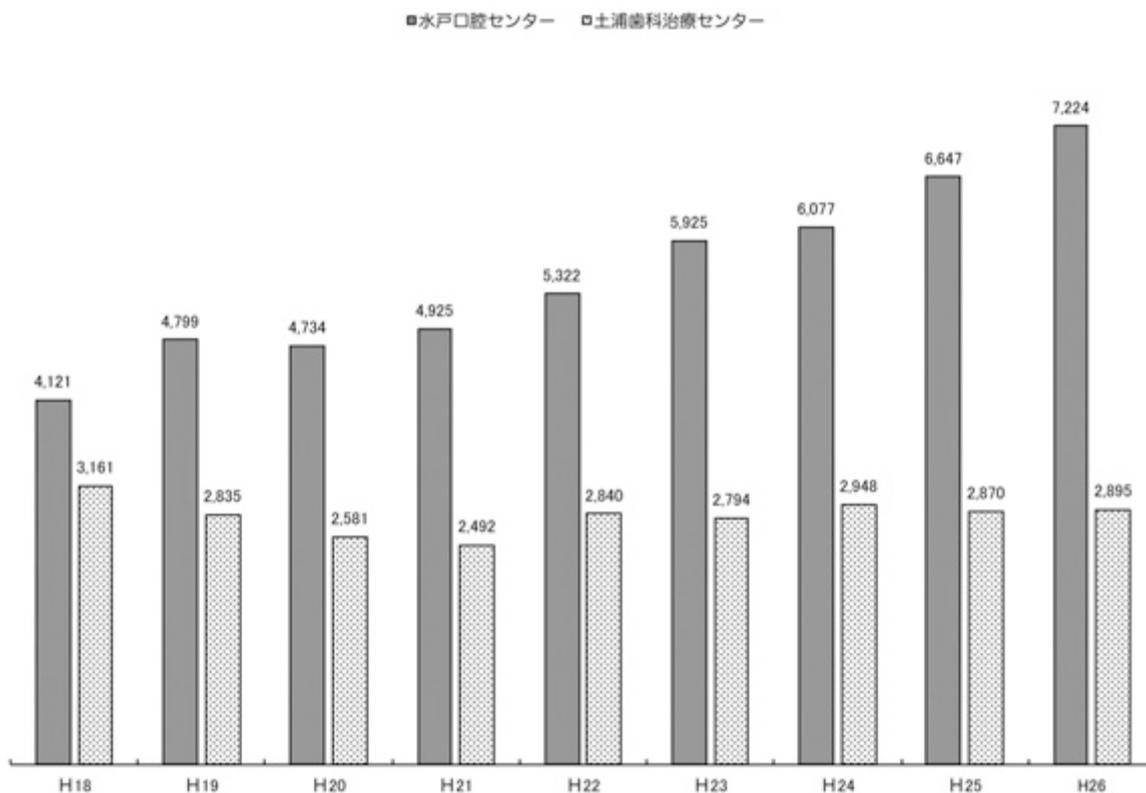
- 開業年月 1991年8月2日
- 面積 75.95平方メートル（約23坪）
- 主な機器や設備 オサダ STS システム 2 台、オサダブチクレーブ 8
- スタッフ構成（非常勤含む） 歯科医師 4 名 歯科衛生士 5 名

9. 水戸口腔センター勉強会題名一覧

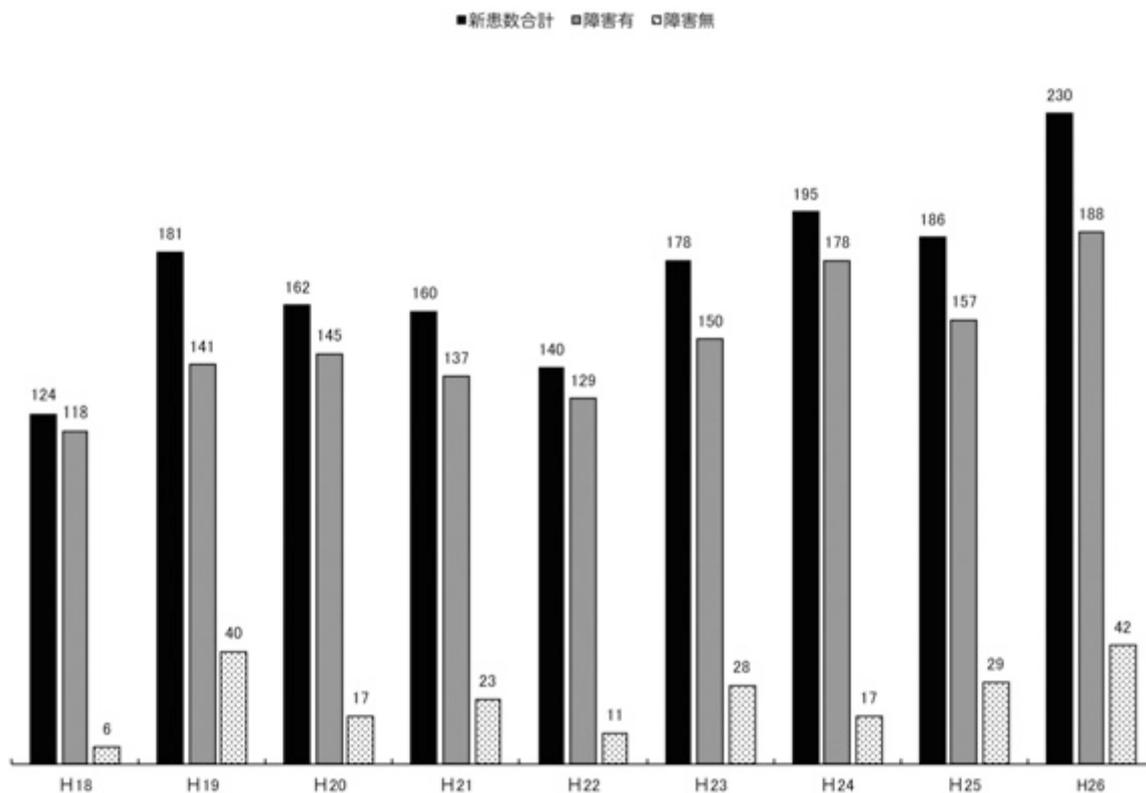
No	題名	担当者	年月日		
1	第29回日本障害者歯科学会シンポジウム「各地域における障害者歯科ネットワーク～行政・歯科医師会・大学の連携～」の講演内容について紹介	関口 浩	平成 24年	10月 4日	
2	障がい者の矯正歯科治療	大森勇市郎		11月 5日	
3	メンタルヘルス研修会に参加して～発達障害について～	野村美奈		12月17日	
4	やる気にする歯科保健指導をめざして	寺門 寿 恵	平成 25年	1月24日	
5	ブラッシングの自立に向けた支援	鈴木 哉 絵		2月21日	
6	薬を服用している患者さんのための基礎知識～骨粗鬆症, ビスフォスフォネート製剤を中心に～	高橋裕子		3月27日	
7	手話入門	金子雅子		4月25日	
8	障害者歯科について	鬼澤璃沙		5月27日	
9	唇顎口蓋裂患者に外科的矯正術を適用した症例	景山万貴子		6月24日	
10	初診患者のケースカンファレンス開始にあたって	関口 浩		7月29日	
11	開咬を呈した脳性麻痺患者への咀嚼機能改善の試み	大森勇市郎		8月30日	
12	窒息について	林佐智代		10月 1日	
13	安全に楽しく食事をするために	野村美奈		10月28日	
14	歯科衛生士が行う口腔管理	鈴木 哉 絵		11月25日	
15	口の中から見た子供の虐待	高橋裕子		12月26日	
16	経管栄養患者の口腔ケア	金子雅子		平成 26年	1月31日
17	器具の洗浄・管理	鬼澤璃沙			2月24日
18	障害者歯科における日帰り全身麻酔の現状	関口 浩			3月28日
19	データベースの利用法	大森勇市郎	4月25日		
20	Four Handed Dentistry	三田村佐智代	6月10日		
21	顎骨壊死・顎骨骨髓炎の発現を防ぐために	景山万貴子	6月23日		
22	障害者虐待防止法について	野村美奈	7月29日		
23	ヒヤリ・ハットの事例と対策～医療事故になる前に～	鈴木 哉 絵	10月 6日		
24	歯周治療で起こる菌血症	高橋裕子	10月 6日		
25	口腔乾燥と口腔ケア	金子雅子	10月31日		
26	肥満予防とう蝕予防	鬼澤璃沙	11月25日		
27	満足度アンケートの集計と結果	山下千春	12月22日		
28	乳歯外傷が後継永久歯に及ぼす影響	関口 浩	平成 27年	1月30日	
29	輸液	森永桂輔		2月 2日	
30	患者が意識を失ったら～失神への対応～	森永桂輔		2月 9日	
31	認知症	大森勇市郎		2月20日	
32	Four Handed Dentistry, レストレーナー, 開口器使用の実際(実技)と留意点	三田村佐智代		3月24日	

10. 患者統計

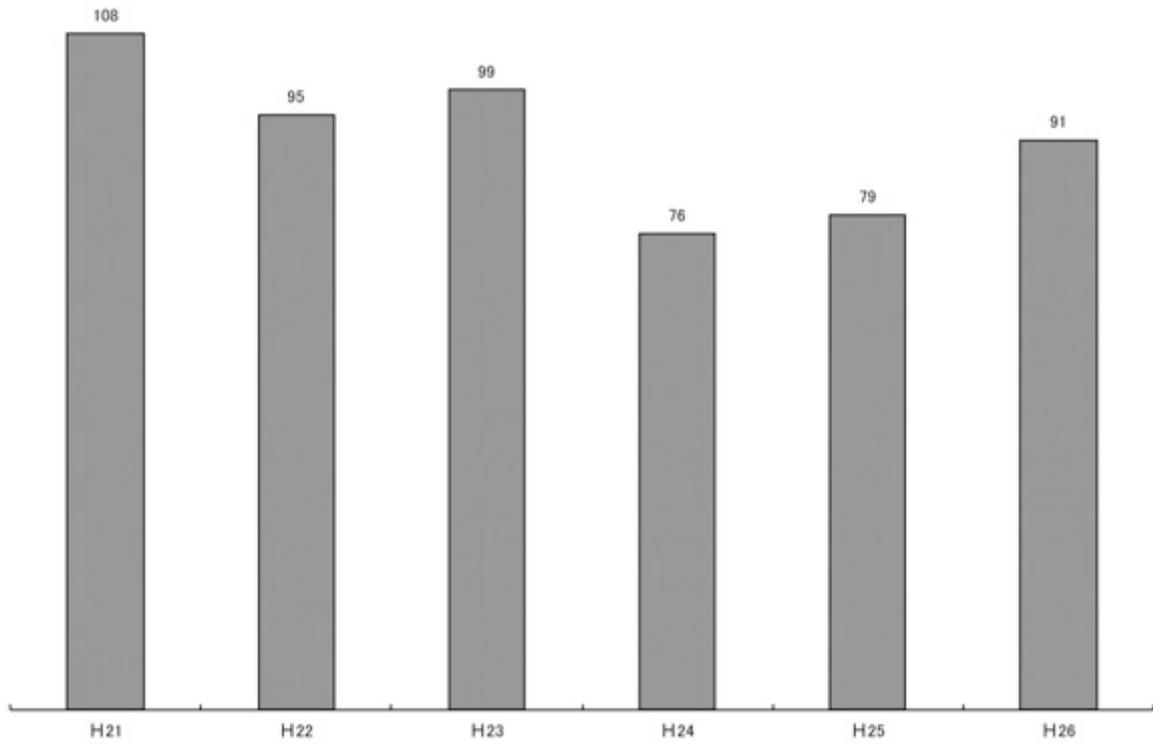
1) 水戸口腔センターおよび土浦歯科治療センターにおける延べ患者数の年度別推移



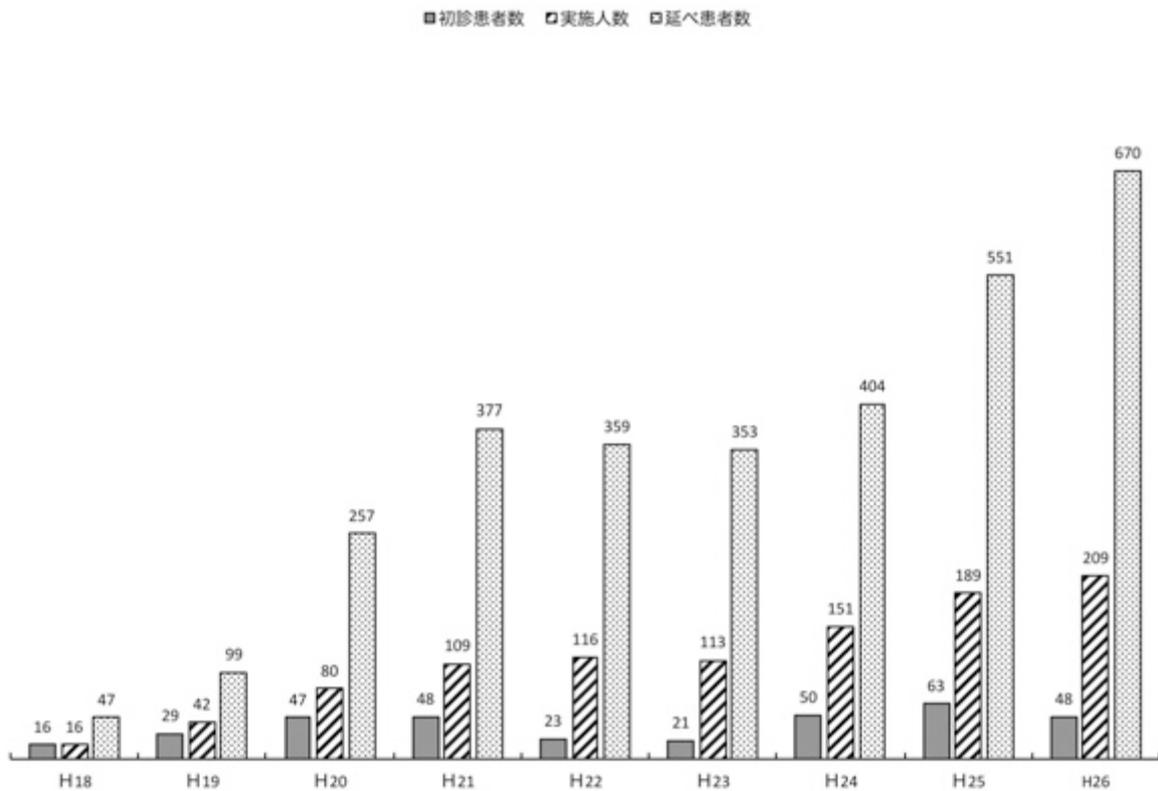
2) 水戸口腔センターにおける新患数の年度別推移



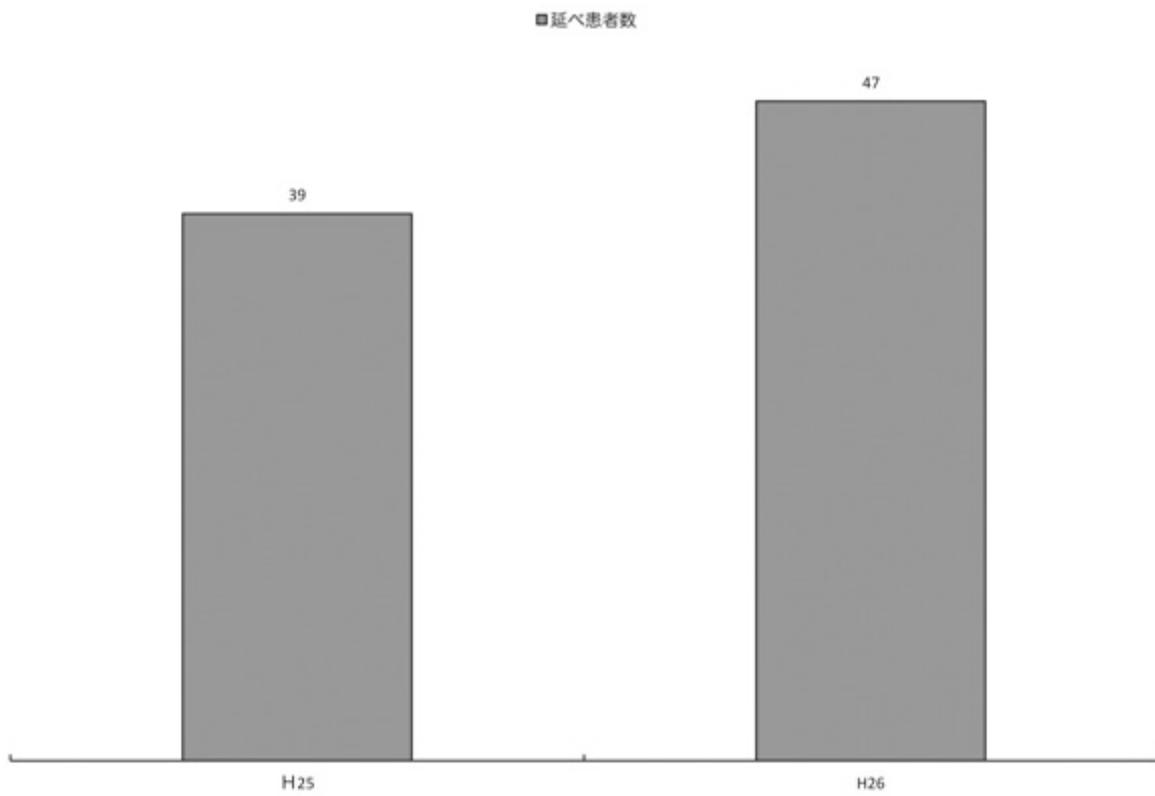
3) 土浦歯科治療センターにおける新患数の年度別推移



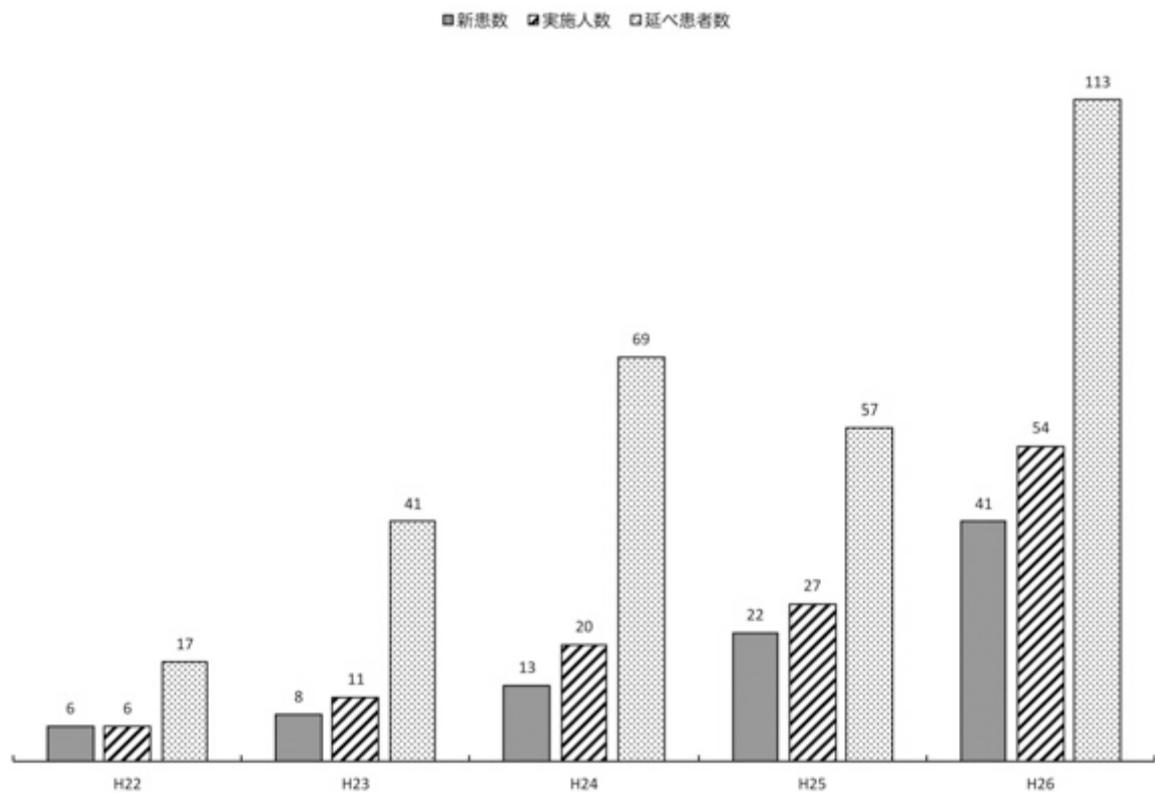
4) 水戸口腔センターにおける摂食嚥下リハビリテーションの新患・実施人数・延べ患者数の年度別推移



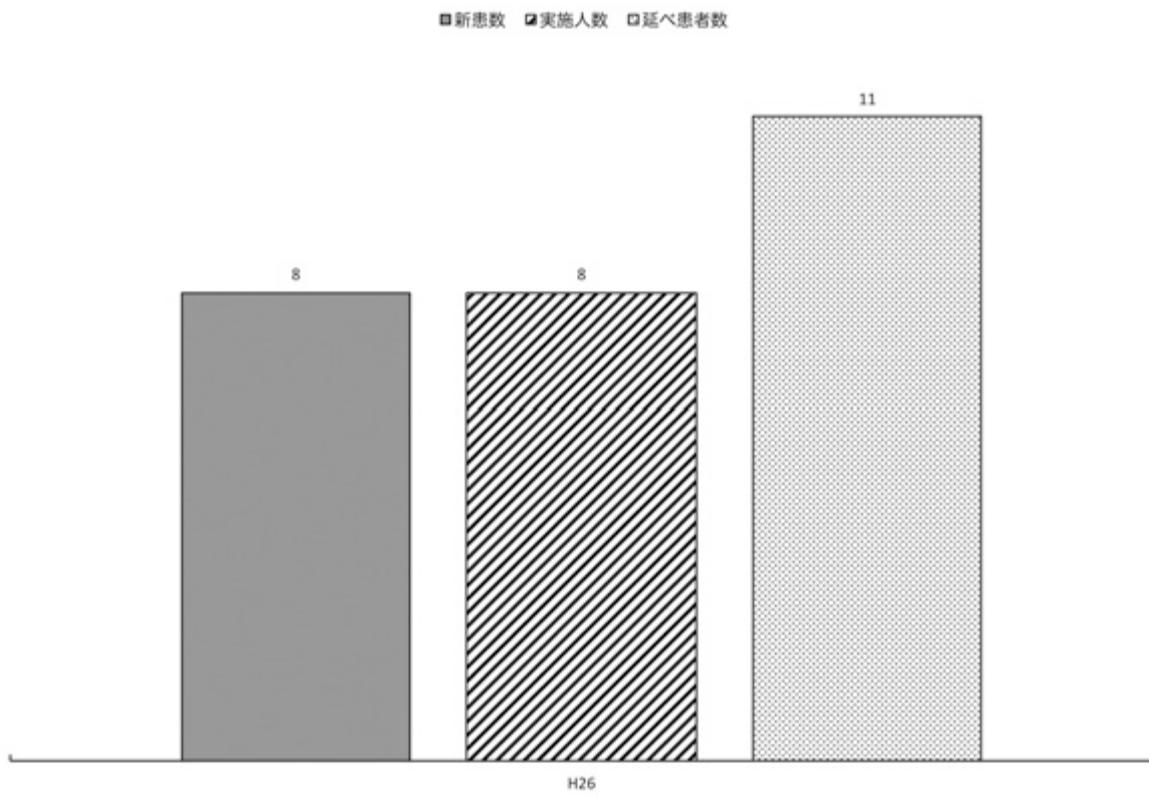
5) 土浦歯科治療センターにおける摂食嚥下リハビリテーションの延べ患者数の年度別推移



6) 水戸口腔センターにおける静脈内鎮静下歯科診療の新患・実施人数・延べ患者数の年度別推移



7) 水戸口腔センターにおける日帰り全身麻酔下歯科診療の新患・実施人数・延べ患者数の年度別推移



11. 写真で綴るこの1年

A. 各種打合せ

1. 水戸口腔センター・土浦歯科治療センター合同医局会（於：霞ヶ浦医療センター）



前列左より、森永桂輔先生、大森勇市郎先生、関口浩先生、丸山容子先生、三田村佐智代先生
二列左より、鈴木哉絵歯科衛生士、伊藤 梓先生、景山万貴子先生、梅澤幸司先生、
高木伸子先生、竹中京子歯科衛生士、金子雅子歯科衛生士、
坂巻ますみ歯科衛生士、野村美奈歯科衛生士、鬼澤璃沙歯科衛生士
三列左より、木村貴子歯科衛生士、狩野晴美歯科衛生士、石居由香歯科衛生士、
山下千春歯科衛生士、手塚文栄管理栄養士



会議風景

2. 茨城県歯科医師会障害児・者歯科診療推進作業部会（於：茨城県歯科医師会館）



3. 日帰り全身麻酔下歯科診療の施術に関する県立中央病院看護師との打合せ
(於：茨城県歯科医師会館)



前列左より、茨城県立中央病院高橋千恵子看護師，庄司紀子看護師，角田直枝看護師，
森永和男会長，関口 浩先生，森永桂輔先生
後列左より，野村美奈歯科衛生士，鈴木哉絵歯科衛生士，鬼澤璃沙歯科衛生士，
山下千春歯科衛生士



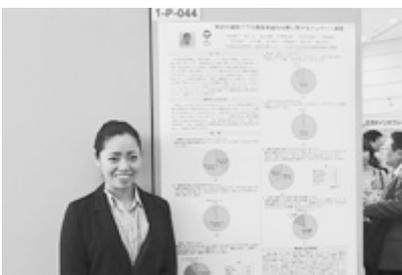
打合せ風景

B. 学会

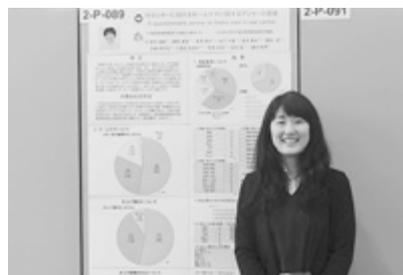
1. 第31回日本障害者歯科学会



仙台国際センター会場前で参加者一同



演者 鬼澤璃沙歯科衛生士



演者 鈴木哉絵歯科衛生士



演者 関口 浩先生



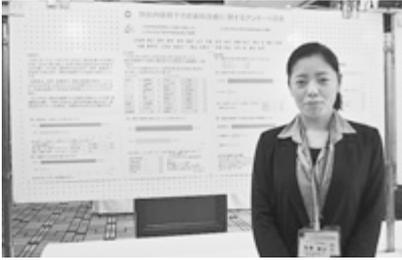
演者 坂巻ますみ歯科衛生士



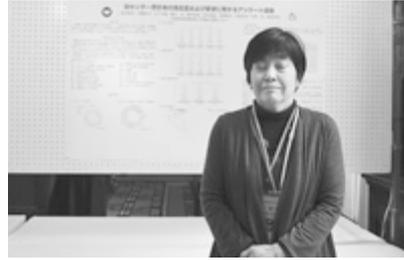
演者 高木伸子先生

2. 第23回茨城県歯科医学会

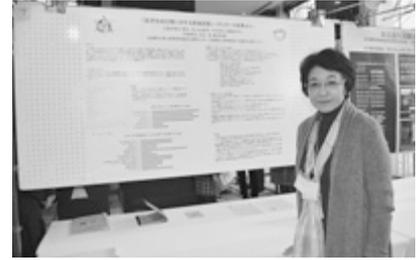
①ポスター発表



演者 鬼澤璃沙歯科衛生士



演者 金子雅子歯科衛生士



演者 高木伸子先生

②口演発表



演者 森永桂輔先生

③障害児・者歯科講演会



挨拶する森永和男会長



講師 白川哲夫先生



司会の関口 浩先生



講演会の参加者



参加者との質疑応答



鈴木潤一副会長による
感謝状の贈呈

C. 講習会・研修会

1. 第1回障害児・者歯科予防講習会（於：茨城県歯科医師会館）



挨拶する森永和男会長



講師 棟方直子先生



講演風景

2. 第2回障害児・者歯科予防講習会（於：霞ヶ浦医療センター）



挨拶する森永和男会長



講師 中島知夏子先生



講演風景

3. 摂食嚥下研修会



三田村佐智代先生の講演



VTR 症例をみでの機能評価とグループディスカッション



4. 特別支援学校強化事業（境特別支援学校）



教員への研修会



給食指導



教員への直接訓練の指導

5. 心身障害児療育訓練センターにおける保護者勉強会（ひたちなか市総合福祉センター）



保護者への食べる機能についての研修



保護者への虫歯と口腔ケアについての研修

D. 臨床

①全身麻酔施設設備と診療ユニット整備に伴う診療室の改修



②全身麻酔器機等の取り扱い説明会



③マネキンを用いた全身麻酔のシミュレーション



④全身麻酔下の歯科診療実施



E. 教育

1. 茨城歯科専門学校歯科衛生士科第1学年のセンター実習開始前のオリエンテーション



2. 鬼澤璃沙歯科衛生士と山下千春歯科衛生士の新人研修



F. その他

①山下千春歯科衛生士歓迎会



②土浦・水戸合同忘年会（於：土浦・高砂）



12. 録 事

I. 身体障害者小児歯科治療センター（水戸口腔センター）

平成 26 年

- 4 月 1 日 山下千春歯科衛生士（平成 26 年茨城歯科専門学校歯科衛生士科卒）就任
日帰り全身麻酔下歯科診療患者の受付開始
診療曜日として新たに水曜日を導入。それに伴い診療体制の一部変更
- 4 月 7 日 第 1 回日帰り全身麻酔下歯科診療シミュレーション
- 4 月 8 日 看護協会専務理事と派遣候補者との面談
- 4 月 10 日 鈴木哉絵，山下千春両歯科衛生士 石岡第一病院の全身麻酔を見学
- 4 月 11 日 茨城歯科専門学校歯科衛生士科第 2 学年の障害者歯科学講義
期間：4 月 11 日～9 月 17 日
回数：10 回
時間：90 分 / 1 回（計 15 時間）
内容：障害者歯科総論，障害者歯科診療に応用される行動調整法，障害の種類と歯科の特徴，
障害者と薬剤，障害者歯科における歯科衛生士の役割，障害者の歯科保健指導と口腔保
健管理，障害者歯科医療・保健施設における歯科衛生士の役割
担当：関口 浩，森永桂輔
- 4 月 11 日 鬼澤璃沙，山下千春 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座主催の摂食嚥下研修会（第 1 回）
に出席
- 4 月 14 日 第 1 回水戸・土浦合同医局会
場所：霞ヶ浦医療センター第 2 会議室
- 4 月 17 日 鬼澤璃沙，山下千春両歯科衛生士に対する新人研修開始
期間：4 月 17 日～6 月 30 日
回数：10 回
内容：①各種薬剤・セメントの取り扱い，②ブローチ綿栓（拭掃・抱撰）の作成，局所麻酔の
取り扱い，③ラバーダム防湿，④乳臼歯生活歯髄切断法，⑤乳臼歯既製金属冠修復，⑥
永久切歯歯冠破折歯のコンポジットレジン修復，⑦幼若第一大臼歯に対するシーラント，
⑧外科処置の器具の取り扱い・手順
担当：関口 浩，景山万貴子
- 4 月 25 日 第 27 回医局会
勉強会担当：大森勇市郎
課題：「データベースの利用法」
- 5 月 1 日 茨城歯科専門学校歯科衛生士科第 1 学年の口腔センター臨床実習前オリエンテーション
- 5 月 1 日 鬼澤璃沙，山下千春両歯科衛生士に対する研修（第 2 回）
課題：マネキンを用いたラバーダム防湿法の実習
- 5 月 8 日 鬼澤璃沙，山下千春両歯科衛生士に対する研修（第 3 回）
課題：マネキンを用いた生活歯髄切断法の実習
- 5 月 9 日 鬼澤璃沙，山下千春両歯科衛生士 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座主催の摂食嚥下研修
会（第 2 回）に出席
- 5 月 12 日 第 2 回日帰り全身麻酔シミュレーション
- 5 月 16 日 関口 浩 第 52 回日本小児歯科学会大会（東京）参加
- 5 月 20 日 平成 25 年度茨城県障害児・者歯科治療センター記録（3）発刊
- 5 月 20 日 第 1 回 茨城県障害児者歯科診療推進小委員会開催
場所：茨城県歯科医師会館 3 F 第 1 会議室
出席：森永和男会長，征矢 亘専務理事，村居幸夫常務理事

- (水戸) 関口 浩, 大森勇市郎, 三田村佐智代, 森永桂輔, 野村美奈, 鈴木哉絵
鬼澤璃沙, 山下千春
(土浦) 高木伸子, 梅澤幸司, 坂巻ますみ, 竹中京子
- 5月23日 第11回初診患者ケースカンファレンス
担当: 関口 浩, 大森勇市郎
- 5月26日 山下千春歯科衛生士歓迎会 (於: 桜坂)
- 5月27日 第28回医局会
- 6月4日 茨城県立水戸特別支援学校の摂食指導研修会
場所: 茨城県立水戸特別支援学校 午後1時30分~4時50分
演題: 「安全な食事をするために~摂食指導の基本的な考え方や誤嚥等の危険~」
講師: 三田村佐智代
参加: 保護者と教職員
講演補助: 野村美奈, 鈴木哉絵, 鬼澤璃沙, 山下千春
- 6月8日 水戸口腔センター企画・茨城県歯科医師会主催 障害児・者歯科講演会
場所: 茨城県歯科医師会館3F 講堂
演題: 「発達障害の理解と言語治療」
講師: 棟方直子先生 (宮本病院リハビリテーション科)
- 6月8日 第1回水戸・土浦合同打合会
場所: 茨城県歯科医師会館3F 第1会議室
出席: 森永和男会長, 征矢 亘専務理事, 村居幸夫常務理事
(水戸) 関口 浩, 大森勇市郎, 三田村佐智代, 森永桂輔, 野村美奈, 鈴木哉絵
鬼澤璃沙, 山下千春, 金子雅子, 高橋裕子
(土浦) 丸山容子, 高木伸子, 梅澤幸司, 坂巻ますみ, 竹中京子, 木村貴子, 狩野晴美,
手塚文栄
- 6月8日 第1回茨城県障害児者歯科診療推進作業部会
場所: 茨城県歯科医師会館3F 第1会議室
出席: (水戸) 関口 浩, 大森勇市郎, 三田村佐智代, 森永桂輔, 野村美奈, 鈴木哉絵,
鬼澤璃沙, 山下千春
(土浦) 高木伸子, 梅澤幸司, 坂巻ますみ, 竹中京子, 手塚文栄
- 6月9日 第12回初診患者ケースカンファレンス
担当: 関口 浩, 景山万貴子
- 6月10日 勉強会担当: 三田村佐智代
課題: 「Four Handed Dentistry」
- 6月12日 茨城県歯科医師会第3回理事会 (平成26年6月12日開催) において, 茨城県障害児・者歯科治療センターのシンボルマークが承認
- 6月17日 日帰り全身麻酔施術に関する県立中央病院看護師との打合会
場所: 茨城県歯科医師会館3F 第1会議室
出席: 茨城県立中央病院角田直枝看護師, 庄司紀子看護師, 高橋千恵子看護師
森永和男会長, 関口 浩, 森永桂輔, 野村美奈, 鈴木哉絵, 鬼澤璃沙, 山下千春,
人見順一, 江橋 努
内容: 本歯科治療センターの概要および歯科治療全身麻酔導入の経緯について
全身麻酔施術に関する内容および要望について
県病院局との協定書および事務手続きについて
全身麻酔症例についての説明
センター施設見学
- 6月20日 鬼澤璃沙, 山下千春の両歯科衛生士 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座主催の摂食嚥下研修会 (第3回) に出席

- 6月23日 茨城歯科専門学校歯科衛生士科第2学年前期臨床実習開始
 期間：6月23日～9月22日
 編成：1グループ4～5人編成で10班
 回数：10回（各班とも月・火のいずれかの1日間）
 人数：47人
- 6月23日 第29回医局会
 勉強会担当：景山万貴子
 課題：「顎骨壊死・顎骨髄炎の発現を防ぐために」
- 6月23日 第1回日帰り全身麻酔下歯科診療術前カンファレンス（第1症例）
 出席：関口 浩，森永桂輔，景山万貴子，野村美奈，鈴木哉絵，鬼澤璃沙，山下千春，金子雅子，高橋裕子
- 6月24日 茨城県歯科医師会主催 摂食嚥下研修会
 日程：6月24日（火），7月22日（火），8月26日（火），9月30日（火），10月28日（火），12月7日（日）の計6回
 時間：午後6時20分～7時50分（12月7日は午前10時30分～午後3時30分）
 場所：茨城県歯科医師会館 3F 講堂
 内容：「食べるための構造とメカニズム」（講義）
 「哺乳・離乳期の発達とその障害」（講義）
 「自食機能の発達とその障害」（講義）
 「摂食嚥下機能訓練の実際①」（実習）
 「摂食嚥下機能訓練の実際②」（実習）
 「摂食嚥下機能障害への対応～各障害における摂食指導の実際～，摂食嚥下機能評価の方法，事例検討（参加型）」（講義・ディスカッション）
 対象：茨城県内の障害のある者に関わる職種の方
 講師：三田村佐智代
 講義・実習補助：野村美奈，鈴木哉絵，鬼澤璃沙，山下千春，金子雅子，高橋裕子
- 6月27日 第13回初診患者ケースカンファレンス
 担当：関口 浩，大森勇市郎
- 6月30日 日帰り全身麻酔下歯科診療開始
- 6月30日 鬼澤璃沙，山下千春の新人研修修了
- 7月7日 第14回初診患者ケースカンファレンス
 担当：関口 浩
- 7月11日 鬼澤璃沙，山下千春 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座主催の摂食嚥下研修会（第4回）に出席
- 7月13日 第5回関東障害者歯科臨床研修会参加
 会場：埼玉県彩の国すこやかプラザ2階セミナープラザ
- 7月14日 第2回日帰り全身麻酔下歯科診療術前カンファレンス（第2・3症例）
 出席：関口 浩，森永桂輔，景山万貴子，野村美奈，鈴木哉絵，鬼澤璃沙，山下千春，金子雅子，高橋裕子
- 7月18日 第15回初診患者ケースカンファレンス
 担当：関口 浩，大森勇市郎
- 7月22日 第6回関東障害者歯科臨床研究会打合会（第1回）
 出席：関口 浩，高木伸子
 場所：土浦歯科治療センター
- 7月28日 第2回茨城県障害児者歯科診療推進作業部会
 場所：霞ヶ浦医療センター会議室
 出席：（水戸）関口 浩，森永桂輔，野村美奈，鈴木哉絵，鬼澤璃沙，山下千春

(土浦) 高木伸子, 梅澤幸司, 坂巻ますみ, 竹中京子

- 7月29日 第30回医局会
勉強会担当: 野村美奈
課題: 「障害者虐待防止法について」
- 8月4日 第16回初診患者ケースカンファレンス
担当: 関口 浩, 影山万貴子
- 8月22日 第17回初診患者ケースカンファレンス、医療安全報告・検討会
担当: 関口 浩, 大森勇市郎
- 8月29日 第31回医局会
- 8月30日 センター案内パンフレット発行
- 9月1日 山本 毅先生 (つくば市・桜ヶ丘歯科センター勤務) センター見学
- 9月4日 第1回センター運営委員会
場所: 茨城県歯科医師会館会議室
- 9月8日 第18回初診患者ケースカンファレンス
担当: 関口 浩, 景山万貴子
- 9月12日 鬼澤璃沙, 山下千春 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座主催の摂食嚥下研修会 (第5回) に出席
- 9月16日 茨城県言語聴覚士会会長との面談
場所: 茨城県歯科医師会館小会議室
出席: 茨城県言語聴覚士会 草野義尊会長, 岩崎淳也副会長
茨城県歯科医師会 森永和男会長, 征矢 亘専務理事
茨城県身体障害者小児歯科治療センター 関口 浩
- 9月21日 第2回茨城県歯科医師会障害児者歯科診療推進小委員会
場所: 霞ヶ浦医療センター会議室
出席: 森永和男会長, 征矢 亘専務理事, 村居幸夫常務理事
(水戸) 関口 浩, 大森勇市郎, 森永桂輔, 野村美奈, 鬼澤璃沙, 山下千春
(土浦) 高木伸子, 梅澤幸司, 坂巻ますみ, 竹中京子, 手塚文栄
- 9月24日 茨城県特別支援学校強化学業3回目
境特別支援学校における実践研究2回目
担当: 野村美奈, 鬼澤璃沙
- 9月26日 第19回初診患者ケースカンファレンス
担当: 関口 浩, 大森勇市郎
- 9月29日 長田情報誌「Zoom Up」センター取材・写真撮影, 森永会長へのインタビュー取材
- 10月1日 関口 浩 茨城県歯科医師会準会員入会
- 10月2日 茨城歯科専門学校歯科衛生士科第2学年前期障害者歯科学試験解説
- 10月6日 第32回医局会, 医療安全報告・検討会
勉強会担当: 鈴木哉絵, 高橋祐子
課題: 「ヒヤリ・ハットの事例と対策 ～医療事故になる前に～」
課題: 「歯周治療で起こる菌血症」
- 10月6日 茨城歯科専門学校歯科衛生士科第2学年後期臨床実習
期間: 10月6日～2月6日
編成: 1グループ4～5人編成で11班
回数: 11回 (各班とも月・火・金の3日間)
人数: 47人
- 10月6日 茨城歯科専門学校歯科技工士科第2学年の見学実習
期間: 10月6日～10月31日
編成: 1グループ2人編成で8班

- 回数：8回（月・木・金曜日のいずれか1日）
人数：15人
- 10月14日 獨協医科大学学生5年生4名が地域保健実習のためセンター見学
10月14日 第3回日帰り全身麻酔下歯科診療術前カンファレンス（第4症例）
出席：関口 浩，森永桂輔，野村美奈，鈴木哉絵，山下千春
- 10月17日 鬼澤璃沙，山下千春 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座主催の摂食嚥下研修会（第6回）
に出席
- 10月24日 第20回初診患者ケースカンファレンス，医療安全報告・検討会
担当：関口 浩，大森勇市郎
- 10月27日 第4回日帰り全身麻酔下歯科診療術前カンファレンス（第5症例）
出席：関口 浩，森永桂輔，野村美奈，鈴木哉絵，鬼澤璃沙，山下千春
- 10月31日 第33回医局会
勉強会担当：金子雅子
課題：口腔乾燥と口腔ケア
- 11月 4日 第2回水戸・土浦合同医局会
場所：茨城県歯科医師会館第1会議室
出席：（水戸）関口 浩，大森勇市郎，三田村佐智代，森永桂輔，野村美奈，鈴木哉絵，鬼澤璃沙，
山下千春，金子雅子，高橋裕子
（土浦）丸山容子，高木伸子，梅澤幸司，坂巻ますみ，竹中京子，狩野晴美
- 11月 7日 鬼澤璃沙，山下千春 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座主催の摂食嚥下研修会（第7回）
に出席
- 11月10日 第21回初診患者ケースカンファレンス
担当：関口 浩，影山万貴子
- 11月14～16日
第31回日本障害者歯科学会総会および学術大会に参加
会場：仙台国際センター
参加：関口 浩，三田村佐智代，野村美奈，鈴木哉絵，鬼澤璃沙，山下千春
演題：ポスター発表3演題
- 11月17日 第5回日帰り全身麻酔下歯科診療術前カンファレンス（第6症例）
出席：関口 浩，森永桂輔，影山万貴子，野村美奈，鈴木哉絵，鬼澤璃沙，山下千春
- 11月25日 第34回医局会
勉強会担当：鬼澤璃沙
課題：肥満予防とう蝕予防
- 11月27日 茨城県歯科専門学校歯科衛生士科第3学年国家試験対策補習講義
回数：1回
時間：90分
内容：障害者歯科
担当：関口 浩
- 11月28日 第22回初診患者ケースカンファレンス，医療安全報告・検討会
担当：関口 浩，大森勇市郎
- 12月 1日 水戸・土浦合同忘年会
会場：高砂（土浦）
- 12月 8日 第23回初診患者ケースカンファレンス
担当：関口 浩，影山万貴子
- 12月12日 鬼澤璃沙，山下千春 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座主催の摂食嚥下研修会（第8回）
に出席
- 12月22日 第35回医局会

- 勉強会担当：山下千春
 課題：満足度アンケートの集計と結果
- 12月26日 第24回初診患者ケースカンファレンス
 担当：関口 浩, 大森勇市郎
- 12月26日 仕事納め
- 平成27年
- 1月6日 仕事始め
- 1月7日 リリー保育福祉専門学校介護福祉学科第2学年に対する摂食嚥下についての講義
 担当：野村美奈
- 1月16日 鬼澤璃沙, 山下千春 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座主催の摂食嚥下研修会（第9回）
 に出席
- 1月19日 ことばの教室開設に向けて言語聴覚士磯野 敦先生とスタッフとの事前打合せ
- 1月23日 第25回初診患者ケースカンファレンス, 医療安全報告・検討会
 担当：関口 浩, 大森勇市郎
- 1月30日 第36回医局会
 勉強会担当：関口 浩
 課題：乳歯外傷が後継永久歯に及ぼす影響
- 2月2日 茨城歯科専門学校歯科衛生士科第1学年の臨床実習オリエンテーション
 担当：関口 浩, 野村美奈
- 2月2日 第6回日帰り全身麻酔下歯科診療術前カンファレンス（第7症例）
 出席：関口 浩, 森永桂輔, 野村美奈, 鈴木哉絵, 鬼澤璃沙, 山下千春
- 2月2日 障害児・者歯科研修会：ベーシックコース参加者申込開始（締切2月28日）
- 2月5日 大成女子高等学校1年生2名の職場体験（5日と6日の2日間）
- 2月9日 第2回水戸・土浦合同打合せ, 第23回茨城県歯科医学会予演会, 危機管理講演会
 場所：霞ヶ浦医療センター会議室
 出席：（水戸）関口 浩, 大森勇市郎, 森永桂輔, 野村美奈, 鈴木哉絵, 鬼澤璃沙, 山下千春,
 金子雅子
 （土浦）丸山容子, 高木伸子, 坂巻ますみ, 竹中京子, 石井由香, 狩野晴美, 手塚文栄
 内容：予演会 金子雅子, 高木伸子, 鬼澤璃沙, 森永桂輔)
 講演会 患者が意識を失ったら～失神への対応 森永桂輔)
- 2月10日 茨城県歯科専門学校歯科衛生士科第1学年生徒見学実習
 期間：2月10日～3月20日
 編成：1グループ4～5人編成で10班
 回数：10回（各班とも月, 火, 金のいずれか1日）
 人数：48人
- 2月12日 第2回センター運営委員会
 場所：茨城県歯科医師会館会議室
- 2月13日 筑波大学医学群医学類第5年次学生6名が社会医学実習のためセンター見学
- 2月13日 鬼澤璃沙, 山下千春 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座主催の摂食嚥下研修会（第10回）
 に出席
- 2月16日 第26回初診患者ケースカンファレンス
 担当：関口 浩
- 2月18日 心身障害児療育訓練センターにおける保護者勉強会
 対象：心身障害児療育訓練センターに通所している幼児および保護者
 場所：ひたちなか市総合福祉センター
 心身障害児療育訓練センター野蒜教室・かなりや教室

- 内容：かなりや教室
 講話 保護者のみ 「歯の健康について」 講師：鈴木哉絵
 実技 親子 「歯磨き指導」 講師：鬼澤璃沙
 野蒜教室
 講話 保護者のみ 「咀嚼について」 講師：野村美奈
 実技 親子 「歯磨き指導」 講師：鈴木哉絵
- 2月20日 第37回医局会
 勉強会担当：大森勇市郎
 課題：認知症
- 2月22日 第23回茨城県歯科医学会
 会場：水戸プラザホテル
 題数：ポスター3題，口演1題，障害児・者歯科講演会（参加者71名）
- 3月2日 第7回日帰り全身麻酔下歯科診療術前カンファレンス（第8症例）
 出席：関口 浩，森永桂輔，野村美奈，鈴木哉絵，鬼澤璃沙，山下千春
- 3月2日 「ことばの教室」患者予約開始
- 3月9日 第27回初診患者ケースカンファレンス
 担当：関口 浩，景山万貴子
- 3月9日 重症心身障害児支援従事者等研修事業に係る検討会
 会場：茨城県庁
 担当：茨城県保健福祉部障害福祉課
 出席：野村美奈
- 3月11日 グリーナンせつゑ先生センター見学
- 3月13日 鬼澤璃沙，山下千春 日本大学松戸歯学部障害者歯科学講座主催の摂食嚥下研修会（第11回）
 に出席
- 3月16日 ことばの教室開設に向けて言語聴覚士磯野 敦先生とスタッフの最終打合せ
- 3月18日 社会福祉法人 茨城補成会 涸沼学園で講演
 場所：涸沼学園
 内容：摂食嚥下の講義・カンファレンス
 入所利用児者を対象に機能訓練の実演
 対象：職員・入所利用児者
 講師：野村美奈，鈴木哉絵
- 3月20日 第28回初診患者ケースカンファレンス，医療安全報告・検討会
 担当：関口 浩，大森勇市郎
- 3月24日 第38回医局会
 勉強会担当：三田村佐智代
 課題：Four Handed Dentistry，レストレーナー，開口器使用の実際（実技）
- 3月24日 第3回茨城県歯科医師会障害児者歯科診療推進小委員会
 場所：茨城県歯科医師会会館
 出席：森永和男会長，村居幸夫口腔センター担当理事
 （水戸）関口 浩，大森勇市郎，三田村佐智代，森永桂輔，野村美奈，鈴木哉絵，
 鬼澤璃沙，山下千春
 （土浦）梅澤幸司，高木伸子，坂巻ますみ，竹中京子，手塚文栄
 岩崎淳也（水戸メディカルカレッジ），人見順一（専門学校事務長）

12. 録 事

II. 土浦心身障害者歯科治療センター（土浦歯科治療センター）

平成 26 年

- 4 月 11 日 第 175 回摂食カンファレンス
演題：「嚥下造影の基礎と臨床」
講師：安岡利一（㈱日立製作所多賀総合病院副院長）
- 4 月 14 日 第 1 回水戸・土浦合同医局会（霞ヶ浦医療センター）
- 4 月 14 日 茨城歯科専門学校歯科衛生士科第 2 学年講義
課題：「訪問歯科保健指導」
期間：4 月 14 日～6 月 16 日，計 6 回
担当：竹中京子
- 4 月 20 日 医療安全管理研修会
演題：「開業医で実践可能な感染対策」
参加：坂巻ますみ
- 4 月 30 日 美浦特別支援校 個別指導
講師：手塚文栄
見学・相談：丸山容子
- 5 月 7 日 センターバキュームコンプレッサー点検およびエックス線量検査
- 5 月 9 日 第 176 回摂食カンファレンス
演題：「こどもに使う神経系薬剤の使用状況とその特徴」
講師：渡辺章充（土浦協同病院小児科医師）
- 5 月 15 日 第 1 回学校運営委員会，第 1 回講師会
参加：竹中京子
- 5 月 16 日 第 52 回日本小児歯科学会大会
演題：「頭部変形と顔面及び歯列弓のアシンメトリーを認めた 1 例」
演者：高木伸子
- 5 月 20 日 茨城県障害者歯科診療推進小委員会
- 6 月 6 日 かしわ学園 歯科検診
検診：丸山容子，竹中京子
- 6 月 8 日 茨城県歯科医師会主催 障害者・児講演会
演題：「発達障害の理解と言語治療」
- 6 月 8 日 第 1 回水戸・土浦合同打ち合わせ会
第 1 回 茨城県障害児・者歯科診療推進作業部会
- 6 月 10 日 オサダユニット ブラケット，取っ手修理
- 6 月 13 日 第 177 回摂食カンファレンス
演題：「摂食嚥下障害児・者の口腔の様子あれこれ」
講師：高木伸子（たかぎ歯科院長）
- 6 月 30 日 美浦特別支援学校 個別指導
講師：手塚文栄（見学：丸山容子）
- 7 月 13 日 第 5 回関東障害者歯科臨床研修会
テーマ：「障害者歯科における口腔保健センターの展望」
参加：高木伸子，坂巻ますみ，竹中京子
- 7 月 24 日 下妻特別支援校 個別指導
講師：手塚文栄
- 7 月 28 日 第 2 回歯科診療推進作業部会（霞ヶ浦医療センター）

- 7月31日 土浦市療育センター 歯科検診
検診：高木伸子，竹中京子
- 8月20日 下妻特別支援校 職員研修
講師：手塚文栄
- 8月23日～24日
日本咀嚼学会健康咀嚼指導士認定講習会
参加：坂巻ますみ，木村貴子，石居由香，狩野晴美，丸山容子
- 9月4日 第1回センター運営委員会
参加：丸山容子，坂巻ますみ
- 9月6日～7日
第20回日本摂食嚥下リハビリテーション学会
参加：高木伸子，坂巻ますみ，竹中京子，手塚文栄
- 9月11日 筑波大学医学部5年生見学
- 9月12日 第178回摂食カンファレンス
演題：「摂食嚥下障害とその対策」
講師：市村和大（市村歯科医院）
- 9月21日 茨城県歯科医師会主宰障害児・者歯科予防講習会
演題：「発達を促す食事支援～食べたように子は育つ～」
講師：中島知夏子（摂食カウンセラー・NPO 法人摂食コミュニケーションネットワーク理事長）
- 9月25日 下妻特別支援校 個別指導，保護者対象講習会
講師：手塚文栄
- 9月26日 筑波教育セミナー
演題：在宅におけるこどもの口腔ケアと摂食
～こどもと家族の生活を支える技 Part6～
講師：高木伸子
- 9月27日 県主催健康づくりキャンペーン
場所：イオンモールつくば
参加：木村貴子，狩野晴美
- 10月9日 社会福祉法人明清会 ほびき園 歯科検診
検診：高木伸子，竹中京子
- 10月10日 第179回摂食カンファレンス
演題：「糖尿病の基礎」
講師：安岡利一（(株)日立製作所多賀総合病院副院長）
- 10月17日 社会福祉法人桜会 さくら荘 歯科検診
検診：丸山容子，木村貴子
- 10月22日 茨城歯科専門学校歯科衛生士科第2学年くすみ館実習
期間：10月22日～3月11日 計6回
担当：竹中京子
- 10月26日 茨城医療福祉研究会 第7回歯科フォーラム（つくば国際大学）
- 10月29日 リリー保育福祉専門学校第2学年「口腔ケアの実際について」講義
担当：竹中京子
- 11月4日 エックス線漏えい線量測定
- 11月4日 第2回水戸・土浦合同医局会（水戸）
- 11月14日～16日
第31回日本障害者歯科学会および学術大会（仙台）
ポスター発表2題
参加：高木伸子，丸山容子，坂巻ますみ，竹中京子

- 11月22日 BLSヘルスケア・プロバイダーコース
参加：木村貴子, 狩野晴美
- 11月27日 つくば特別支援校 保護者対象研修会
講師：手塚文栄
- 12月1日 水戸・土浦合同忘年会（土浦高砂）
- 12月4日 茨城県立医療大学 摂食嚥下障害看護認定看護師養成コース講義
担当：高木伸子, 竹中京子
- 12月8日 茨城県立医療大学 摂食嚥下障害看護認定看護師養成コース
講義：摂食嚥下訓練技術論
講師：高木伸子
- 12月9日 茨城歯科専門学校歯科衛生士科第3学年国家試験対策講義「訪問歯科保健指導」
担当：竹中京子
- 12月12日 茨城県立医療大学 摂食嚥下障害看護認定看護師養成コース
講義：「障害児を中心とした食形態の工夫とリスクマネジメント」
講師：手塚文栄
- 12月12日 第180回摂食カンファレンス
演題：「当院の嚥下キッチン」
講師：梶山楊平氏（志村大宮病院・ST）、後藤恵理子氏（志村病院・管理栄養士）
演題：「当院の嚥下食と地域連携」
講師：鈴木薫子（㈱日立製作所日立総合病院・管理栄養士）
- 12月18日 褥瘡研究会「栄養と食形態を考慮した在宅療養者の元気のできるメニュー」
参加：手塚文栄

平成27年

- 1月10日 第181回摂食カンファレンス
演題：「食べる楽しみを再び ～牛久コスモス園（小規模多機能型施設）職員と共に～」
講師：古田良恵（牛久セントラル病院・摂食嚥下障害・看護認定看護師）
- 1月29日 美浦特別支援校 個別指導
講師：手塚文栄
- 2月9日 第2回水戸・土浦合同打ち合わせ会
- 2月11日 第2回北関東摂食嚥下リハビリテーション研究会セミナー（水戸）
参加：高木伸子, 竹中京子, 手塚文栄
- 2月12日 第2回センター運営委員会
参加：丸山容子, 坂巻ますみ
- 2月12日 土浦市療育センター 歯科検診
検診：高木伸子
- 2月12日 第2回学校運営委員会, 第2回講師会
参加：竹中京子
- 2月13日 第182回摂食カンファレンス反省会懇親会・27年度計画打ち合わせ（道頓堀）
- 2月22日 第23回茨城県歯科医学会
- 2月25日 主任会議（水戸口腔センター）
参加：坂巻ますみ
- 3月13日 第183回摂食カンファレンス
演題：「小児症例検討会」
講師：菅谷陽子（県立医療大・摂食嚥下障害看護認定看護師）
- 3月19日 主任会議（水戸口腔センター）
参加：坂巻ますみ

- 3月19日 第3回講師会
参加：竹中京子
- 3月21日 日本咀嚼学会健康咀嚼指導士認定講習会フォローアップセミナー
参加：狩野晴美
- 3月27日 伊藤梓先生，竹中京子歯科衛生士送別会（大かわ）
- 3月31日 伊藤梓先生，竹中京子歯科衛生士退職

13. 編集後記

▶ 日帰り全身麻酔下の歯科診療

茨城県在住の障害児・者が最小の負担で安全・安心かつ質の高い歯科診療を受けることができる歯科医療体制作りの一環として、懸案事項でありました「日帰り全身麻酔下の歯科診療」が茨城県身体障害者小児歯科治療センター（水戸口腔センター）において、平成26年6月より開始されました。本法の導入に当たっては、全身麻酔のための施設設備整備に伴う診療室の改修、スタッフ研修、看護師による術前・術中・術後の患者管理、全身麻酔器機の新規導入など予算・人事において事前に解決すべき課題が山積していました。森永和男会長を始め、茨城県歯科医師会のご理解とご努力により、本年度から開始できましたことに深く感謝申し上げます。我々スタッフも悦ばし限りですが、最も歓迎していただけるのは、おそらく県内に数多くいらっしゃる全身麻酔下での歯科診療を必要とする潜在患者の方々ではないでしょうか。平成22年10月より実施しています静脈内鎮静法に加え、障害児・者の歯科診療を行う上で必要な対応法が水戸口腔センターではすべて整備されたこととなります。今後はより一層、障害児・者の口腔健康の維持・管理を積極的に推進し、QOLのさらなる向上を目指すため鋭意・努力することが水戸口腔センターならびに土浦歯科治療センターの責務と考えています。

▶ 茨城県の障害児・者歯科医療の未来予想図

我が国では、少子高齢化が加速度的に進行し、それに伴い妊娠分娩に係るリスクは増大を続けています。その背景にあって、周産期および新生児医学・医療の目覚ましい進歩により、一昔前までは生存困難であった早産児も新生児蘇生法により生存率は改善されつつあります。この状況は悦ばしいことではありますが、一方で、障害・合併症のある小児が増加傾向にあることも指摘されています。現在、要介護高齢者の訪問歯科診療活動が全国の各地域で行われていますが、近い将来、「要介護小児の訪問歯科診療」の必要性が問われる時代が来るのではないかと危惧するところです。また、日本産婦人科医会の全国調査によると、ダウン症で生まれる赤ちゃんの数が過去15年間で約2倍（1995年が1万人あたり6.3人で、2011年は13.6人）に増えている報告があります。これは高齢出産の増加に伴い、ダウン症の子を妊娠する人が増えていることが背景にあります。

高齢者においては、心臓病や高血圧、脳血管障害後遺症などの全身的な管理を必要とする患者に対して歯科診療を施す機会が増加の一途を辿っています。最近では認知症、精神障害のある患者の来院も増えています。

茨城県も他県と同様に今後、障害のある子どもやお年寄りが年々増加することは明らかであり、県行政・県歯科医師会および会員・口腔センターは一丸となって施策を講じる必要が迫られているのではないのでしょうか。

最後に、本誌の編集に際して、ご協力いただいた水戸口腔センターおよび土浦歯科治療センターのスタッフ各位に感謝を申し上げます。

平成27年3月31日
水戸口腔センター 関口 浩

茨城県障害児・者歯科治療センター記録（4）

発行日 平成27年5月20日発行
発行者 公益社団法人 茨城県歯科医師会
〒310-0911 水戸市見和2-292-1
電話 029-254-4177
印刷所 大富印刷株式会社
〒311-1251 ひたちなか市山崎160
電話 029-265-9321
